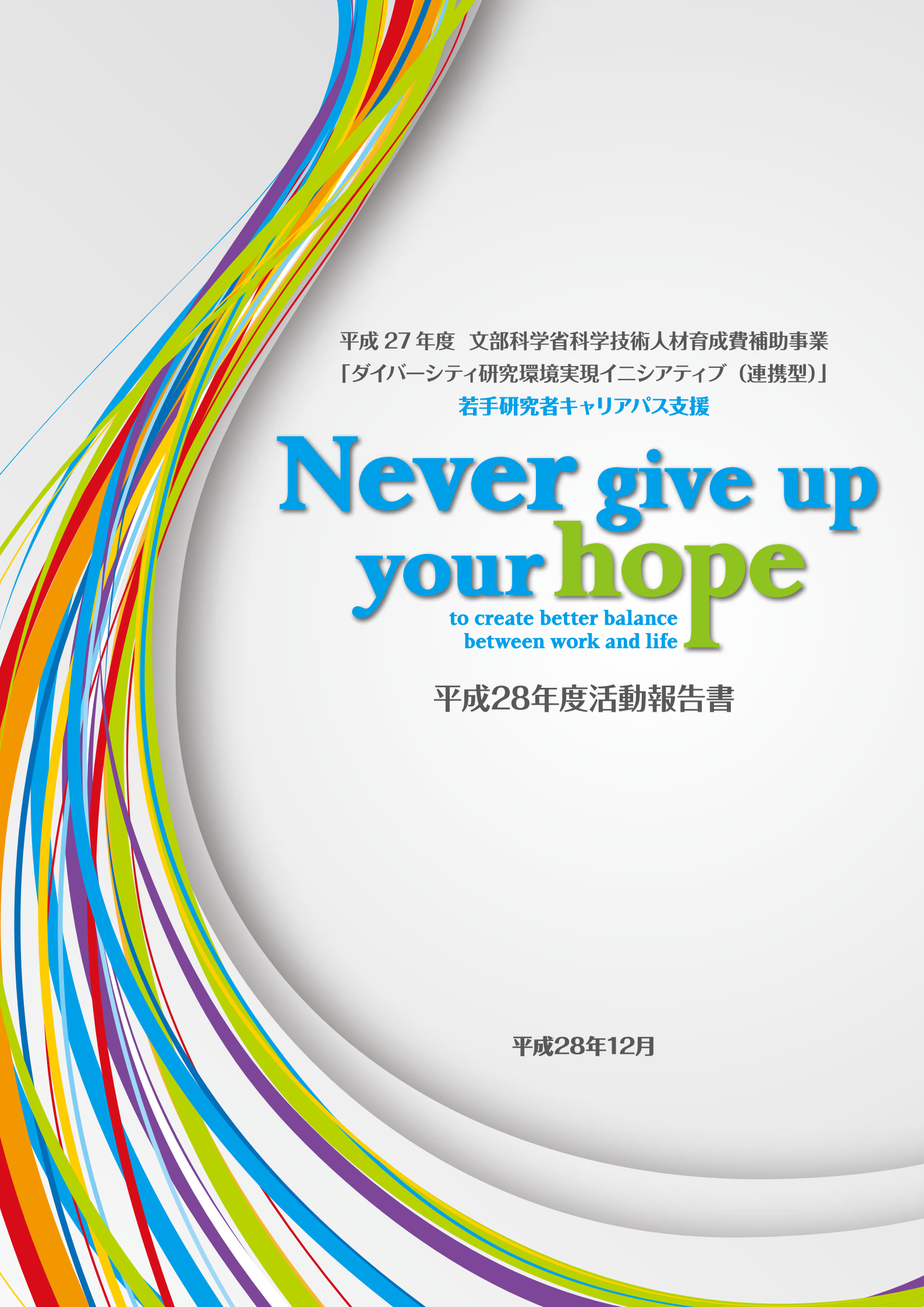




平成 27 年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」
若手研究者キャリアパス支援

Never give up your hope

to create better balance
between work and life

平成28年度活動報告書

平成28年12月

次世代育成支援事業について

東京医科歯科大学では、平成 27 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」に採択され、順天堂大学・株式会社ニッピと連携して、若手研究者のキャリアを育成する「若手研究者キャリアパス支援」（旧名：若手研究者キャリアデザイン事業）の取組を行っております。平成 28 年度は事業実施の 2 年目を迎え、東京医科歯科大学のほか順天堂大学の大学院生も対象に広げて活動を行いました。

本事業においては毎年、大学院生が今後のキャリア形成に必要な課題を解決するためのチームを組み、自主企画を実施しております。平成 28 年度は「男女役割平等意識」「女性の働く環境改善」に焦点を当て、テーマを“Never give up your hope ~to create better balance between work and life~”と題し、男女役割平等意識・女性の働く環境改善に関するアンケート調査、および研究者向けの交流会を実施しました。アンケート調査では、自分では気がついていない男女格差の意識や社会・職場におけるジェンダーバイアス、及びそれらを改善するための制度の内容を明らかにしました。交流会では「研究の悩み、どうやって解決していますか」と題し、研究者の方々から、研究のモチベーションの保ち方や課題の乗り越え方について情報交換を行い、日々の研究活動の参考情報とすることができました。

次世代を担う若手研究者の方々におかれましては、本書を今後のキャリア形成の参考にして頂けましたら幸いです。

平成 28 年 12 月

東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構

DDユニット事業推進室

若手研究者キャリアパス支援事業 参加メンバー一同

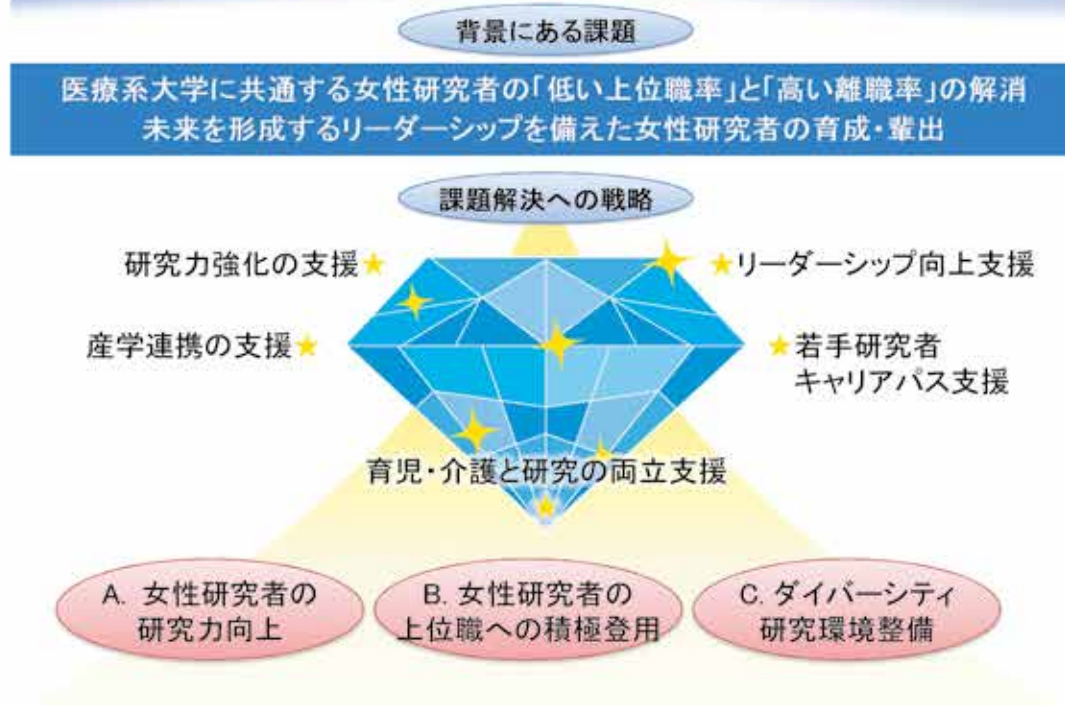


目 次

次世代育成支援事業について	i
平成 27 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業	
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（連携型）」における本取組の紹介 .	1
次世代育成支援事業～オープンキャンパスでの活動紹介～	2
本事業の趣旨	6
本事業に参加したきっかけ（朴・ABULAITI・KHIN）	8
本事業のミーティングレポート	9
第一章 アンケート調査	
アンケート調査の概要と尺度、実施方法及び回答者数	14
アンケート調査票（日本語）	15
アンケート調査票（英語）	21
アンケート結果の分析（Question I：基本属性 Q1. 性別・Q2. 年齢）	27
アンケート結果の分析（Q3. 職業、Q4. 出身国）	29
アンケート結果の分析（Q5. 所属機関、Q6. 婚姻状況）	30
アンケート結果の分析（Q7. 子どもの有無、Q8. 週の平均労働時間）	31
アンケート結果の分析（Q9. 週の平均勉強時間）	32
アンケート結果の分析（Question II：男女役割平等意識 Q1-2. 女性の社会的役割） ..	33
アンケート結果の分析（Q3-4. 女性の家庭内での役割）	34
アンケート結果の分析（Q5-29. 男女役割平等意識の比較・外国人と日本人）	35
アンケート結果の分析（Question III：女性の働く環境改善 Q30-31. リーダーシップ等）	42
アンケート結果の分析（Q32-34. 職場の協力体制と仕事へのチャンス、キャリア） ..	43
アンケート結果の分析（Question IV：自己効力感 Q35-36. 困難の解決と達成方法） ..	45
アンケート結果の分析（Q37-38. 目標への到達と問題解決の方法）	46
アンケート結果の分析（Q39-40. 問題解決の方法と対応力）	47
アンケート結果の分析（Question V：日々の仕事への対処方法 Q41-42. 困難の解決）	48
アンケート結果の分析（Q43-44. 自信の喪失と問題への対応方法）	49
アンケート結果の分析（Q45. 仕事と生活のバランス）	50
アンケート結果の分析（Q46. 問題解決のために所属機関に期待する方策）	51
考察	52
第二章 交流会の開催	
交流会「研究の悩み、どうやって解決していますか」の開催	54
若手研究者キャリアパス支援事業に参加して	57

平成 27 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」
における本取組の紹介

3つの目標と5つの行動計画



ダイバーシティ研究環境整備に関する取組み 「若手研究者キャリアパス支援」

◇「チーム型課題解決プロジェクト(自己負担額で実施)」

・キャリアに関する課題について、大学院生の中でチームを作り、自主的に課題を解決するプロジェクトを運営



「博士課程に進んだ女性研究者のキャリア」プロジェクトの実施により、博士課程に進学する女性研究者が増加

「企業で活躍する女性研究者のキャリア」プロジェクトの実施により、企業に就職する女性研究者が増加



若手研究者キャリアデザイン事業参加メンバー



若手研究者キャリアデザイン事業ミーティング

次世代育成支援事業 ～オープンキャンパスでの活動紹介～

平成 28 年度の東京医科歯科大学のオープンキャンパスは、7 月 28 日と 29 日に開催されました。オープンキャンパスでは毎年、男女協働・参画支援事業及びダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）の取組み、若手研究者キャリアパス支援事業に関する活動のポスターを展示しています。当方の展示ブースに立ち寄られた参加者の方々からは、研究をすることの面白さなど、具体的な質問が寄せられました。

また当推進室において、これまでに作成した冊子等、出版物の配布を行うとともに、来場者の方々に将来の夢を書いて頂き、大型ポスターに印刷した“キャリアツリー”にその夢を掲示するという企画を行いました。毎年、来場者の方々からは多くの将来の夢を寄せて頂いており、「医者になりたい！」「医療従事者として社会や人の役に立ちたい」「結婚しても研究を続けたい」等、多くの夢が今年も掲示されました。

オープンキャンパスでの展示の様子



ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの活動内容のポスター

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

3機関連携女性研究者支援事業



ダイバーシティ・ダイヤモンド(DD) ユニット事業推進室

東京医科歯科大学
順天堂大学
nippi 株式会社 ニッピ

東京医科歯科大学、順天堂大学、株式会社ニッピは、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」を連携して実施しています。ダイバーシティ・ダイヤモンド（DD）ユニット事業推進室を立上げ、5つの事業を計画・実施し、各連携機関の連絡調整を行っています。



【目標】 医療系大学に共通する女性研究者の「低い上位職率」と「高い離職率」の課題を解決する。



DDユニットの由来
「ダイバーシティ・ダイヤモンド（DD）」の由来は、事業の柱である5つの多様（diverse）なプロジェクトを、5角形のダイヤモンドに擬えています。

5つのプロジェクト

① 研究力強化の支援
共同研究の支援：女性研究者を対象とした共同研究費助成を実施しています。
採択件数：平成27年度 18名
平成28年度 10名



共同研究発表会の開催
平成28年度の共同研究の成果発表と評価のために、発表会を開催しました。

② リーダーシップ向上支援
ダイヤモンドリーダー育成：リーダーシップ向上に関するセミナーを開催しています。
開催状況：平成27年度 4回開催
平成28年度 5回開催
テーマ：企業におけるリーダーの育成、怒りの感情のマネジメントとコミュニケーション、より広いビジョンを持つために、研究室のマネジメント、大学病院で男女が心地よく働くために等



「キャリアを積めるバワフルな人にどうすればなるかが分かりました」
（第2回参加者の声より）

キャリアアップに関する意識調査：女性研究者を対象として、女性研究者が上位職に就くための促進要因・阻害要因を分析するための調査を行っています。

③ 育児・介護と研究との両立支援
ファミリーサポートシステムの運用：保育サービス講習会（年2回・全30時間）を開講し、提供会員（育児サポーター）の育成を行っています。平成28年度より育児支援を行いたい人と育児支援を受けたい人のマッチング及びサポートサービスを開始しました。



ファミリーサポート
救命救急講習の様子

ファミリーサポートの仕組みと支援活動



研究支援員配備の実施：出産・育児、介護、あるいは健康上の理由によりキャリア継続に困難を感じている女性研究者に研究支援員を配備しています。
研究支援員配備状況：
平成27年度 順天堂大学 18名
平成28年度 東京医科歯科大学 2名
順天堂大学 14名
株式会社ニッピ 1名

④ 産学連携の支援
共同研究の支援：研究シーズの実用化に向けた支援の一環として、女性研究者を対象とした共同研究費助成を実施しています。
採択件数：平成27年度 3名、平成28年度 5名
産学連携セミナー：産学連携研究に関するセミナーを実施しています。
開催状況：平成27年度 2回開催、平成28年度 2回開催

平成28年度 産学連携研究セミナー



第1回（2月16日）
「点検式プレゼンテーション」
～研究の成果を効果的に伝える～
講師：高野秀一氏
順天堂大学IRA



第2回（3月2日）
「女性研究者による企業との共同研究の仕組み」
講師：渡田千江氏
順天堂大学客員教授

⑤ 若手研究者キャリアパス支援
チーム型課題解決プロジェクト：東京医科歯科大学と順天堂大学の大学院生が合同でチームを組んで、今後のキャリア形成に必要な課題を解決するための自主企画を実施します。プロジェクトの成果は、報告書にまとめて発行しています。
参加者：平成27年度 5名
平成28年度 3名



←参加者による
交流会の様子



↑若手女性研究者の
交流会の様子

東京医科歯科大学 男女協働参画支援事業／保育支援事業

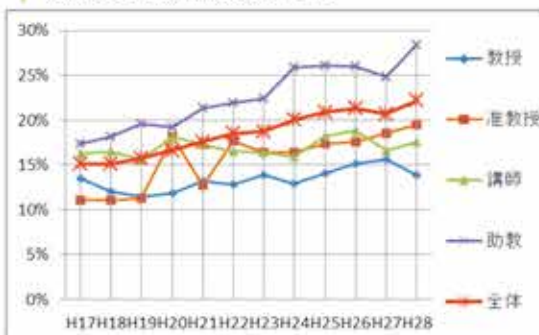
キャリア支援と学業・研究・仕事と家庭との両立支援を行い、
本学における男女共同参画と研究力の強化を推進しています。

支援策として
次の
重点課題

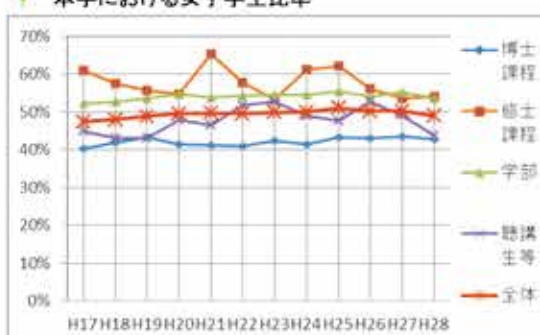
環境整備
と
意識改革

- ①育児・介護中の研究者や女性特有の疾患を持つ研究者等に優先的に研究支援員を派遣する(研究支援員配備事業)。
- ②子どもが病気の際や保育者の仕事の都合など、緊急時の保育に対応できるシステムを構築し、運用する(保育支援事業)。
- ③ネットワークサーバーを整備することで、自宅からの研究活動の継続を可能とする(在宅研究支援事業)。
- ④キャリアや学業・研究・仕事と家庭との両立に関するカウンセリング、講義や交流会を実施する(キャリア支援事業)。
- ⑤広報活動や調査活動を行うことで、学内のニーズに即した事業を実施する(広報・調査事業)。
- ⑥大学院生が今後のキャリア形成に関する事業を自主的に企画運営し、その成果を発表することで、次世代の研究者を育成する(次世代育成支援：若手研究者キャリアデザイン事業)。

● 本学における女性研究者比率



● 本学における女子学生比率



主な活動内容

● 保育支援事業

- 学内保育園「わくわく保育園」…平成22年4月に開設し、定員は27名である。
- 授乳・搾乳スペース…センター内の一部を授乳・搾乳スペースとして開放している。



- 派遣型育児支援事業…子どもが病気の際や、仕事の都合にシッターサービスを利用することができる。平成28年度は全57名(男性13名/女性44名)が利用登録しており、「重要な仕事がある場合、自分やパートナーが仕事を休まずに済むので、キャリアを継続する気持ちの支えになる」等の感想が寄せられている。

● キャリア支援事業

- キャリア相談室…国家認定キャリアコンサルタントが、学内の学生および教職員からのキャリア相談に対応している。
- キャリア講義…学部生を対象にしたキャリア講義を行っている。
- キャリアセミナー…キャリア意識やコミュニケーション能力の向上を意図したセミナーを実施している。
- 両立支援セミナー…家庭と仕事・学業とを両立するためのモチベーション向上の方法や、家庭・職場でのコミュニケーションのとり方等についてセミナーを実施している。



● 次世代育成支援事業

- 若手研究者キャリアデザイン事業…大学院生がキャリア形成に必要なプロジェクトを自主的に企画運営する事業を実施している。平成28年度は3名(東京医科歯科大学1名・順天堂大学2名)の大学院生が参加し、プロジェクトが進行している。
- オープンキャンパスへの参加…支援室スタッフが、高校生等の参加者に向け、本学の魅力や女性研究者支援のありかたについて伝えている。



● 在宅研究支援事業

- 学内外からでも一元管理できる専用ファイルサーバーを設置し、在宅でも継続して研究ができる仕組みを構築している。



- 学内からのみアクセス可能なオンラインジャーナルに自宅からアクセスできるようにしている。



● 研究支援員配備事業

- 育児・介護により、ワーク・ライフ・バランスの実現に困難を感じている研究者に研究支援員を派遣している。
- 平成21年度10名、22年度13名、23年度3名、24年度4名、25～27年度は各5名、28年度6名の研究者に研究支援員を派遣している。
- 平成25年度より、リサーチ・ユニバーシティ(RU)推進機構と連携し、(RU枠)として25年度7名、26～27年度は各4名、28年度3名の研究者に研究支援員を派遣している。
- 平成28年度より、DDユニット事業推進室と連携し、(DDユニット枠)として、2名の研究者に研究支援員を配備している。



● 広報・調査事業

- HP開設…イベントや各種案内の情報公開を行っている。
- シンポジウム…平成27年度は、「女性目線を活かした医学系研究～産学連携の可能性～」をテーマにシンポジウムを開催した。また、この場において、順天堂大学および株式会社ニッピと連携して、女性研究者支援事業(ダイバーシティ・ダイヤモンド(DD)ユニット事業)を実施することを発表した。



- 報告書の発行…活動報告書やシンポジウム報告書、妊娠・出産・育児・介護等(ライフイベント)に関する冊子を作成している。
- 調査…ワーク・ライフ・バランス、保育、職場公正性、キャリアに関するアンケート調査を行っている。

東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構 学生・女性支援センター 男女協働参画支援室／保育支援室

〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 TEL:03-5803-4921 FAX:03-5803-0246

Email : info_ang@tmd.ac.jp

<http://www.tmd.ac.jp/ang/>

*Never give up your hope
~to create better balance between work and life~*

本事業の趣旨

Never give up your hope

~to create better balance between work and life~

企画メンバー

朴 明姫（リーダー）

順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科 博士課程3年

ABUDUREZAKE ABULAITI

順天堂大学大学院 医学研究科 心臓血管外科学 博士課程1年

KHIN YUPAR KYAW

東京医科歯科大学大学院 歯歯学総合研究科 う蝕制御学分野 博士課程3年

目的

最近の少子高齢化現象は様々な分野において社会問題となり、特に労働人口の減少においては、外国人労働者の導入など、早急な対策が要求されている。このように労働人口が不足している中で、もはや女性の仕事と家庭の両立は選択肢の一つではなく、両立すべきものであるとの認識が一般的になっている。活力のある社会の実現のためには、女性と男性が共にあらゆる分野で持てる能力を最大限に発揮して行くことが必要とされている。しかし、日本は OECD 諸国の中で男女賃金の格差が3位であり、女性就業率においても OECD 各国の平均値を下回る低い水準にあり(2013, OECD Better Life Initiative)、低生産、低成長による国家競争力の低下をもたらしている。

伝統的に儒教思想の影響を受けた日本をはじめ東南アジアの国々においては、調和と秩序を重んじる家父長的制度の価値観が家庭と組織文化の中に存在している（内閣府男女共同参画局世論調査 2013、韓国女性政策研究院 2009）。女性の就業を当たり前のこととして受け入れた上で、女性が家事と育児を専担すべきという家庭中心的イデオロギー（Williams, 2000; Walby, 1990）は女性の多重役割の負担をもたらすため、男女が公平に仕事と家事を分担することへのパラダイム転換が必要とされている。また賃金格差をなくすなど女性が職場生活に満足しながら働き続けることが出来る労働環境のデザインが必要とされている。

本プロジェクトでは、世界各国から日本に来ている留学生、日本の学生、大学の教職員を対象に男女役割平等意識を調査して比較検討する。また、男女役割平等意識と自己効力感との関連を明らかにした上で、女性が働きやすい環境整備のために社会や教育現場からの取り組みや改善策を考えることを目的とする。

更に、若手研究者や大学院生がどのようにしてワーク・ライフ・バランスを維持し、日々の研究活動から生じる課題を解決しているか、課題の共有を行うことも目的とする。

方法

① アンケートの実施：東京医科歯科大学、順天堂大学に所属する男女の学生と職員、株式会社ニッピに所属する男女の職員を対象に web によるアンケート調査を行う。

アンケート内容：男女役割平等意識に関する尺度による設問、自己効力感に関する設問、ワーク・ライフ・バランスの満足度や希望する支援制度など

② 研究者向けの交流会の実施：日々の研究における悩みや問題について、研究者間で意見交換を行う。

参加者：東京医科歯科大学、順天堂大学、株式会社ニッピの男女の研究者

スケジュール

8月 アンケート設問の決定

9月～11月 アンケート調査の実施、交流会の開催

11月～12月 事業報告書原稿の作成・編集、最終校正作業

予想される成果

本プロジェクトを行うことによって、男女役割平等意識の格差が明らかとなり、各連携機関で男女ともに活動しやすい環境整備における課題を把握することができる。また、研究者がどのように自己効力感を保ち、どのように日々の研究生生活を乗り越えているかを共有し、今後の研究生生活やキャリアパスの拡大につなげることができる。



本事業に参加したきっかけ

朴 明姫

順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科 博士課程 3 年

大学を卒業して銀行員として仕事を始め、30 年間仕事をして来ました。その間、結婚、出産、子育てを併行して来ました。家庭と仕事の両立はいつも自分にとって生き甲斐であり課題でもありました。OECD のジェンダーに関する指標をみながら、日本と韓国の Gender Gap が下の順位に留まっている根本的な問題は何なのか？ 今更、自分の研究テーマは換えることは出来ませんが、自分に出来ることは無いのか。その答えは、まずは、この企画に参加することでした。

ABUDUREZAKE ABULAITI

順天堂大学大学院 医学研究科 心臓血管外科学 博士課程 1 年

私は自分の家族を愛しています。自分の専門分野も大好きです。そして毎日の生活と勉強や仕事のバランスをキープしたいです。しかし、いくら頑張ってもなかなか難しいです。そのため、他の人々が生活と仕事・勉強とのバランスがとれているかどうか、もしとれていなかったらどのような問題があるか。どうすれば、ストレスを簡単になくす事ができて、生活と勉強や仕事のバランスをキープすることができるかを知りたいです。もしいい方法があれば他の人たちの助けになりたいと思い、このプロジェクトに参加しました。

ئەسسالامۇئەلەيکۇم

ئىسىمىم ئابدۇرازاق ئابلىت

جۈننەندو ئونۋېرسىتېتى يۈرەك تاشقى كىسەللەكلەر بۆلۈمىدىن، بۇيىل دوكتۇرلۇق ئوقۇشۇمنىڭ تۇنجى يىلى

مەن ئائىلىنى سۆيىمەن ،كەسپىيىمىمۇ بەك ياخشى كۆرىمەن ،دائىم ھەممە ئىشلىرىمنى ياخشى قىلسامكەن ،بۇلۇپمۇ خىزمەت ،تۇرمۇش ،ئۆگۈنىشنى بىر- بىرسىگە تەسىر قىلدۇرماي تەك ئېلىپ بارسام دەپ ئويلايمەن ،بىراق ئىشلار دائىم بىز ئويلىغاندەك بولمايدىكەن ،قانچە تىرىشساقمۇ ،ئۇنداق مۇنداق مەسىلىلەرگە يۇلۇقۇپ تۇرىدىكەنمىز ،دائىم باشقىلارمۇ ماڭا ئوخشاش مەسىلىلەرگە ئۇچۇرارمۇ ؟بۇمەسىلىلەرنى ياخشى بىر تەتەپ قىلالايدىغانلار قانچىلىك ؟بىر تەرەپ قىلالايدىغانلار جۇ ؟ھەل قىلالايسلىقنىڭ سەۋەبى زادى نېمە ؟ياخشى ھەل قىلىشنىڭ بىرەر چارىسى بارمۇدۇ ؟دەپ ئويلاپ قالەمەن .،شۇڭا ئىزدەنىپ ياخشىراق جاۋاپقا ئېرىشىپ قالسام ئازىراق بولسىمۇ ئۈزۈمگە ۋە باشقىلارغا ياردەمىم تېگىپ قالار دىگەن مەقسەتتە بۇتۈرگە قاتناشتىم .

KHIN YUPAR KYAW

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 う蝕制御学分野 博士課程 2 年

I always appreciate projects promote of by support office for female researchers in TMDU. I have chosen this project because the topic "Gender role attitude and improving working environment for women" would be an interesting research as I want to know how much a woman's role changes from country to country. I want my life at TMDU to be a memorable experience, a milestone by which I can do something good for our university. I can gain knowledge from these experiences that will help me get through life and develop my career. Now I am living with my younger sister and doing two research projects. It is not easy to maintain a family life, a career and a social life. From this research, I believe I can get some ideas on how to balance my career goals and to create a better working environment. Besides helping myself with these ideas, I can also help my family, my friends, even the women of my country upon my return to my motherland. In the course of this project, I hope I can meet some new friends from different fields and we can share knowledge and life experiences. In my opinion, participating this project means not only helping me achieves my career goals but also serving as inspiration to other women. This is the reason why I joined this project.

本事業のミーティングレポート

日付	検討内容	備考
2016. 7. 19 Attendees: Dr. Arima, Ms. Khin, Ms. Park	検討事項 1. 自己紹介 2. Project 案件の提案および検討 1) Ms. Park から “留学生の男女役割平等意識について” 2) Ms. Khin の意見 : Myanmar の現状に関するコメントも含め、Asia 諸国は EU などの国々に比べて男女平等意識が遅れている現状を把握できた。 3) 東京医科歯科大と順天堂大の男女の留学生・学生・教職員を対象に男女役割平等意識調査をして比較、検討することにした。 その際、以下の海外で普及している尺度を参考に検討することにした。 ・ Sex Role Egalitarian Attitudes –Short Form ・ Self-Efficacy(Lynda A .King and Daniel W.King) ・ GHQ 12 item * 次回の課題(次回まで HP の掲示板にてメンバーが各自意見を出すこと) 1) 提案されている尺度を各自検討して不適切だと思われる項目を修正する。 2) 必要とされる質問項目を新たに提案する。	「Kick off Meeting」 次回の会議：「7月 26 日 (火)11 時」
2016. 7. 26 Attendees: Dr. Arima, Ms. Park, Ms. Khin	Work done in this session: 1. Selection of questionnaires for interview and survey All members revised questionnaires prepared by each member. Only the important and relevant questions were included in the interview and survey. There was a thorough discussion and exchange of ideas/comments regarding which questions are suitable for the participants. 2. Suggestions about which questions will be added, excluded and subdivided were specified and noted. 3. The availability of the members and the date of the next meeting was confirmed. It was scheduled for August 2, 11-12 am.	September 6 (11:00-12:00) : Availability of members and meeting for final questionnaire revisions were finalized.
2016.8.30 Attendees: Dr.Arima, Mr. Abulaiti , Ms. Khin	Work done in this session: 1. Selection of questionnaires for survey Questionnaires prepared by Abulaiti san and Khin san were revised by the members. Only the important and relevant questions were selected for that project. There were a total of 40 final questions including general questions. Work done in this session: 1. Final revision of the questionnaires for our research The questions were revised and checked again for clarity and understandability. The following questions were added to General Health	Available time of individual members has been confirmed for next week Friday(September23(11-12 pm)

	Questions section (a) Do you ever feel tired or depressed because of study or work? (b) When you face with problems from your study or work which you cannot solve, how do you manage? 1. talk to somebody 2. discuss with supervisor 3. keep diary or book 4. try to find solution 5. sleep or eat 6. shopping 7. listen to music 8. play sports 9. others (c) Do you feel your study or work life and personal life is balanced? (d) In order to improve your problems, what kind of policies do you want from your organizations?	
2016.9.29 Attendees: Dr.Arima, Ms. Park, Ms. Khin	Work done in this session: 1. Finalized revision of the questionnaires for our project Questions were revised and checked and we deleted the unnecessary ones and combined them with questions from Park-san. These were added to the following attached files. 2. Project proposal in Japanese for all questions will also be revised by sister Park	Available time of individual members has been confirmed next week Tuesday 4 (11-12 am). October 4 /2016.
2016. 10. 4 Attendees: Dr. Arima, Ms. Khin	内容 ①設問について最終確認を行った。 ②設問の結果について各分析の担当者を決めた。	次回ミーティング 10月13日(木) 15:00- 16:00 「October 13 Thursday, 15:00」
2016. 10. 13 Attendees: Dr Arima, Mr. Abulaiti, Ms.Khin	Work done in this session: While we are waiting for the the questionnaire to be available online (via web), we discussed the seminar,about the date and type,method. 1. Time and place: November 15Tuesday or November 22, Discussion type: open discussion 2. Distribution of the poster or pamphlets for the seminar: the design of the poster will be made by Abulaiti san. We will take the group photo for this seminar exhibition (during our meeting which will be set a day before the seminar) 3. Other important point we discussed was the title and other related problems: How to manage when we are faced with a problem or a very difficult condition regarding study or work. This will depend on the result of the survey.	Available time for individual members has been confirmed next week October 18 (11-12 am) Tuesday.
2016. 10. 18 Attendees: Dr.Arima, Ms. Khin	< 1 > ウェブサイトの設問をチェックした。 1. 設問 8 は「週に平均何時間働いていますか？」 2. 設問 4 4 の選択肢を変更しました。 < 2 > 設問の日本語訳の間違いを修正した。 < 4 > テスト版では設問 4 6 を未回答のまま送信できたが、未回答では送信できないように修正することを頼む。	次回ミーティング 10月25日(火) 12:30
2016. 10. 25	Work done in this session: 1. The questionnaires were checked for the accuracy of the	Three deadlines were set:

Attendees: Dr Arima, Mr. Abulaiti, Ms. Khin	English and Japanese translations before posting them online. 2. Discussed the distribution of the questionnaires via web link to the participants next week. Responses to the survey can be checked through the web link that was sent by Arima sensei before last week. We also did a dry run to check if the web link works. 3. Preparing how to analyze the results. 4. Discussed how to submit the report: After brain.storming on title of the report book, we came up with the following ideas for the title: "Please do not give up on your hopes, dreams", or "your future or life for they are not only for yourself but also for your loved ones and people who love you". These are only a tentative title and suggestions are still welcome. We will also include in the report book our reasons for joining this project, photographs of our activities and achievements. 5. We also discussed the content and the book color and design (green background and pink or red rose). This will be laid out by Abulaiti san.	First draft: November 24 Second draft: December 1 Final submission: December 8 The detailed contents will be sent by sensei later.
2016.11.1 Attendees: Dr.Arima, Ms. Khin	< 1 > ウェブサイトのアンケート調査の回答状況をチェックした。 日本人146人、外国人6人から回答がなされたが、少ないので有馬先生から順天堂大の担当者へ連絡し、順天堂大の学生さんにもお願いすることにした。 < 2 > 各回答の結果を分析する担当者を決めた。 1. 1-4 Khinさん 5-9 Abulaiti 2. 1-4 Khinさん 5-29 Parkさん 3. 30-32 Khinさん 33-46 Abulaitiさん < 3 > 「11月22日12:00～13:00」にセミナーを開催することが決定された。場所とテーマは有馬先生が決める。	次の会議：「11月8日 (火)11:00から- 12:00」
2016. 11. 8 Attendees: Dr.Arima, Mr. Abulaiti, Ms. Khin	1. Discussion seminar and poster exhibition preparation and their contents. Poster will be prepared by Arima sensei and Abulaiti san in both Japanese and English Date: 2016 November 22 (Tuesday) 12: 00- 13:00 Location: Tokyo Medical and Dental University M & D Tower 11th floor Lecture Room 3 Target audience: Young male and female researchers, graduate students, international students Contents or title: "worries in performing day-to-day research and possible solutions", "how to increase motivation for research How to deal with your stress related work or study" and "please share your experiences and solution" (Tentative) ※ Since this will be held during lunchtime, participants are invited to bring the food. - How to apply: Those who wish to participate, please send your name, your affiliation, contact e-mail address to ddunit.ddu@tmd.ac.jp All members should join the group picture taking to be included in the report book. Submission of seminar report will be on the first week of December. 2. Discussion about Report book title – "NEVER GIVE UP YOUR HOPE TO CREATE BETTER BALANCE" BETWEEN WORK AND LIFE	Next meeting - 11-12 am (November 15)

	We talked about the submission dead line of the first draft and the contents of report book The survey deadline was November 11 so we can start to compute and analyze the survey results from November 12 onwards	
2016. 11. 15 Attendees: Dr. Arima, Mr. Abulaiti, Ms. Khin	Work done: Sensei and Abulaiti san prepared the discussion seminar poster design and the contents layout. We have to think about the member' introductions in the poster. This can be prepared during the seminar at 12-1 pm, NOVEMBER 29, TMDU MD tower 11 floors Room 3. After collecting the answers from the survey, we can start analyzing the results. Each member will work on the report book. The notification of the first draft of report book is November 24. For international applicants (English results pages) the responses of the first two respondents will not be included as they are "test" answers. For Japanese languages pages, the responses of the first four applicants will not be included as they are "test" answers.	Next meeting appointment will be November 22 (Tuesday) 11-12 am.
2016.11.22 Attendees: Dr. Arima, Mr. Abulaiti, Ms. Khin	The graphs of the results prepared by Khin san were discussed and categorized for each question in the survey. 2. We need to discuss matters related to the preparation of the report book. 3. A participants will be assigned for the seminar by next week and she should be present by 11:15 am at The 3rd floor office. They can also bring lunch box. Future plan : Interpretation of the graphs and results will be discussed and combined with the results from the two other leaders.	Next meeting appointment will be November 29.
2016.11.29 Attendees: Dr. Arima, Mr. Abulaiti, Ms.Khin	Work done in this session 1. Report book preparation: have to put comments and discussion for each graph 2. Distribution of works of every member. Arima Sensei to consolidate all the results 3. Today's seminar was successfully accomplished: Detailed seminar report will be written by Abulaiti san. 4. Continue working on the report to meet the dead line set for first week of December for the second draft.	Next appointment will be December 6 Tuesday 11-12 am
2016.12.29 Attendees: Dr. Arima, Ms. Abulaiti, Mr.Khin	Work done in this session 1. Report book preparation and checking by Arima Sensei A. make graph show percentage or real number data put in each graph as well and be consistent and same for all graphs. B. has to put comments and discussion on each graph C. graph background color needs white in order to get clear in printing d. The letters in graph made it thicker, more visible e. 2 photos of our each member needs JPEG file will be send to sensei to get good resolution. f. Revision and design were discussed. g. Each member will work on report book by sending 3 members for the final draft. Khin san will send to Abulaiti san to combine with her data, and then Abulaiti san will send to park san. Park san will arrange all of the data work of each member for the final version in time the final draft.	Next meeting is final one: December 15, 3:30 Pm (Thursday). Final group photos will be necessary. Every member should join at that time.

～第一章～
アンケート調査



アンケート調査の概要と尺度

本事業では東京医科歯科大学と順天堂大学の男女の留学生・学生・教職員を対象に「男女役割平等意識」に関する調査をして比較、検討することにした。

設問で使用する尺度として：

- Sex Role Egalitarian Attitudes –Short Form、Self-Efficacy(Lynda A .King and Daniel W. King)
- GHQ 12 item

上記を参考にして、最終的に個人属性を含めた 45 項目の質問を決めた。Sex Role Egalitarian Attitudes –Short (以下、SRES Score) Form は、男女役割意識を測定する尺度として海外で一般的に使用されている。英語版のため、英語が堪能な日本人教員が日本語に訳し、それを日本語専攻の外国人 2 人がさらに英語に訳し、正しく意味が翻訳されているか確認した上で、日本語版の設問を作成した。SRES の短縮版 25 項目 (King et al, 1990)⁹ を英語版から和訳して使用した。

SRES については、結婚状況 (Marital roles)「5 項目」(例：“皿洗いは夫婦で分担するのがあたり前だと思いますか？”；Cleaning up the dishes should be the shared responsibility of husbands and wives.) 育児(parental roles)「5 項目」(例：“子供の誕生日パーティの準備は父親よりも母親が行うべきだと思いますか？；It should be the mother's responsibility, not the father's to plan the young child's birthday party.)、社会(Social-interpersonal-heterosexual roles)「5 項目」(例：“女性が酔っ払うことは、男性が酔っ払うよりも悪いことだと思いますか？”；It is worse for a woman get drunk than for a man.)、雇用(Employment roles)「5 項目」(例：“仕事上の重要な決断能力は、女性も男性と同様に有していると思いますか？” Women have as much ability as men to make major business decisions.)、教育(Educational roles)「5 項目」(例：“男女の差別なく、専門的なトレーニングのチャンスが平等に与えられるべきだと思いますか？；Men and women should be given an equal chance for professional training.) のサブスケールとして構成され、「5 件法」の回答 (1) まったくそう思わない (2) そう思わない (3) どちらでもない (4) そう思う (5) 非常にそう思うで測定した。尺度の信頼性を表すアルファ係数 (α) は日本人対象者 = 「 $\alpha.77$ 」、外国人対象者 = 「 $\alpha.88$ 」であった。

アンケートの実施方法及び回答者数

設問を決定した後、若手研究者キャリアパス支援事業の小委員会において設問内容及び実施の承認を得てから各 3 機関で設問実施の案内を配信し、一定期間内に Web 調査を実施した。当初は外国人の回答率が低かったため、1 回目の調査が終わった後さらに期間を延長して調査を実施した。

ウェブアンケートのレイアウト・デザインについては外部業者に委託した。

日本語版と英語版の両方の設問を作成し、日本人・外国人の回答者が選んで回答できるようにし、通知も英語で行った。

東京医科歯科大学・順天堂大学・株式会社ニッビの日本人・外国人教職員と学生にスノーボールサンプリング方式で募った参加者を対象に Web 調査を行った。調査は 2016 年 10 月 25 日から 2016 年 11 月 24 日の間に実施され、最終的に日本人 370 名と外国人 19 名を分析対象とした。平均年齢は、日本人「39 歳、SD = 9.59」、外国人「39 歳、SD = 5.23」であった。



アンケート調査票（日本語）



男女役割平等意識・女性の働く環境改善に関するアンケート調査

本調査の回答内容は厳重に管理し、個々の情報を第三者や外部に提供することはありません。また回答結果から、個人が特定されることはありません。

I. 基本項目

1. 性別

☐ 男性 ☐ 女性

2. 年齢を記入して下さい

歳

次の中から年代に○をつけて下さい

☐ 20-29 歳 ☐ 30-39 歳 ☐ 40-49 歳 ☐ 50 歳以上

3. 身分

☐ 大学院生 ☐ 教員 ☐ 職員 ☐ その他

4. 出身国

☐ 日本 ☐ 日本以外の国 ()

5. 所属機関

☐ 東京医科歯科大学 ☐ 順天堂大学 ☐ 株式会社ニッビ

6. 婚姻状況

☐ 結婚または同居 ☐ その他

7. 子どもはいますか？

☐ はい ☐ いいえ

8. 週に平均何時間働いていますか？

☐ 28 時間以下 ☐ 29－40 時間 ☐ 41 時間以上

9. 大学院生のみお答え下さい。毎日平均何時間勉強していますか？

☐ 1－9 時間 ☐ 10 時間以上

II. 男女役割平等意識に関する設問

下記の質問に対し、自分の考えと一致している項目に○をつけて下さい。

		まったく そう 思わない	そう 思わな い	どちらで もない	そう思う	非常に そう思う
1	過去 10 年間にあなたの国では、女性が持つ社会的役割に変化はありましたか？	☐	☐	☐	☐	☐
2	今後の社会においても、男性の持つ役割は女性の役割よりも優位のままだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
3	女性は生涯を通して、夫や子供の世話をして生きるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
4	女性は家庭内の根幹であり、家族の絆を強くする重要な役割を担っていると思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
5	皿洗いは夫婦で分担するのが当たり前だと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
6	夫が一家の主であるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
7	キャリアに関連する決定は夫に任せるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
8	夫は家事に対して口を出すべきではないと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
9	夫婦でパーティに招待された時、夫ではなく妻が参加／不参加の返事をするべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
10	夫は妻に、赤ちゃんの世話を任せるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
11	子供の躾は母親よりも父親が担当することで、家庭が円満になると思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
12	子供の誕生日パーティの準備は、父親よりも母親が行うものだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
13	夜中に子供が起きた時は、母親が面倒をみるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
14	子供のオムツ換えは、父親よりも母親がするのが適切だと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐

	ますか？					
15	仕事上の重要な決断能力は、女性も男性と同様に有していると思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
16	伝統的に男性が担ってきた職業に女性が進出することは奨励すべきでないと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
17	職業上の高額な研修トレーニングの受講には、男性が優先されるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
18	伝統的に女性が担ってきた職業に男性が進入することは悪いことだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
19	女性も男性と同様にビジネスを行う能力を持っていると思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
20	女性が酔っ払うことは、男性が酔っ払うよりも悪いことだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
21	パーティを計画する際に、誰を招待するかを決めるのは女性の方が得意だと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
22	デートの際、女性は男性より賢く見えないように気をつけるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
23	女性は男性よりも噂話をする傾向があると思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
24	デートする際には、男性側の交友関係に合わせて付き合うのがベストだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
25	家庭科の授業には、男子生徒も女子生徒と同様に受け入れられるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
26	高校の進路担当教員は、エンジニアリングのような技術分野にも女性が進出するように励ますべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
27	男女の差別なく、専門的なトレーニングのチャンスが平等に与えられるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
28	学生ローンの申請においては、男女平等に取り扱われるべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
29	男女の差別なく仕事の機会を持てるように、各人がサポートするのが理想的だと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐

Ⅲ. 女性の働く環境に関する設問

		まったく そう 思わない	そう 思わな い	どちらで もない	そう思う	非常に そう思う
30	女性は、職種に関係なくリーダーの職位を目指すべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
31	福利厚生サービス等の組織のサポートが、そこで働く女性のQOLを向上させると思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
32	女性と男性は同じ職場で協力し合い、平等に貢献して仕事をすべきだと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐

33	女性は男性よりも仕事に就くチャンスが少ないと思いますか？	☐	☐	☐	☐	☐
34	女性が一生を通してキャリアを積んで行くことに同意しますか？	☐	☐	☐	☐	☐

IV. 自己効力感に関する設問

次の質問は自分自身にどのくらいあてはまりますか？

	あてはまらない	ややあてはまる	よくあてはまる	完全にあてはまる
35 私には十分に努力すれば、常に困難を解決できる。	☐	☐	☐	☐
36 もし私の仕事に反対されても、私は自分が望む達成方法を見つけることができる。	☐	☐	☐	☐
37 私にとって自分の計画を守り、目標にたどりつくことは簡単である。	☐	☐	☐	☐
38 私は、問題解決の複数の方法を見つけることに自信がある。	☐	☐	☐	☐
39 私に問題があるときは、私は常に複数の解決方法を見つけられる。	☐	☐	☐	☐
40 何が起きたとしても、私は常に対応できる。	☐	☐	☐	☐

V. 日々の仕事・学業が困難な際の対処方法に関する設問（当てはまる回答をお選び下さい）

41.あなたは仕事や勉強のことで疲れたり、憂鬱になることがありますか？

☐ まったくない ☐ ときどきある ☐ しばしばある ☐ いつもある

42. あなたはこれまで、困難な状況を乗り越えられなかったと感じることがありますか？

☐ まったくない ☐ ときどきある ☐ しばしばある ☐ いつもある

43.あなたはこれまでに自信をなくしたことがありますか？

☐ まったくない ☐ ときどきある ☐ しばしばある ☐ いつもある

44. 仕事、または勉強で解決し難い問題があった際、どのように対応していますか？（複数回答可、3つまで選択してください）

☐ 先輩・同僚に相談する ☐ 上司と相談する ☐ 仕事や勉強をやり続ける

☐	自分で解決策を探す	☐	自分にとって楽な選択肢を探す	☐	決断を先延ばしにする
☐	寝る、または食べる	☐	買い物をする	☐	音楽を聴く
その他					

45. あなたの仕事や勉強と、生活のバランスが取れていると思いますか？

☐ まったくそう思わない
 ☐ そう思わない
 ☐ どちらともいえない
 ☐ そう思う
 ☐ 強くそう思う

46. あなた自身の問題を解決するには、あなたの所属機関にどのような方策を期待しますか？（自由回答）。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

送信

© ダイバーシティ・ダイヤモンド(DD)ユニット事業推進室

アンケート調査票（英語）
Questionnaire
(English)



Answer the contents of this survey is strictly managed, it does not provide individual information to a third party or external. Also from the answer a result, will not be personally identifiable.

I. General Questionnaire

1. Gender

☐ Male ☐ Female

2. Age

years old

Choose your generation.

☐ 20-29 years old ☐ 30-39 years old ☐ 40-49 years old ☐ Over 50

3. Occupation

☐ Graduate Student ☐ Faculty ☐ Administrative Staff ☐ Others

4. Country of Origin

☐ Japan ☐ Other countries ()

5. Affiliation

☐ Tokyo Medical and Dental University ☐ Juntendo University ☐ Nippi, Inc.

6. Marital Status

☐ Married/cohabitated ☐ Others

7. Do you have children?

☐ Yes ☐ No

8. How many hours do you work per week (on average)?

☐ Less than 28 hours
 ☐ 29-40 hours
 ☐ More than 41hours

9. For graduate students only: How many hours do you study everyday?

☐ 1-9 hours
 ☐ Over 10 hours

II. Questionnaire about gender role attitude

Please read each statement and decide how much you agree or disagree. Please do not omit any statements.

		Strongly Disagree	Disagree	Neutral or undecided	Agree	Strongly agree
1	Were there changes in social role of women in the past 10 years in your country?	☐	☐	☐	☐	☐
2	Do you think the role of men will still be prominent over women in future societies?	☐	☐	☐	☐	☐
3	Do you think women should live their whole life as general helpers to their husbands and kids?	☐	☐	☐	☐	☐
4	Do you think that women are the basic fundamentals of family and play her roles as a main contributor in building a strong family?	☐	☐	☐	☐	☐
5	Cleaning up the dishes should be the shared responsibility of husbands and wives.	☐	☐	☐	☐	☐
6	The husband should be head of the family.	☐	☐	☐	☐	☐
7	Important career-related decisions should be left to the husband.	☐	☐	☐	☐	☐
8	A husband should not meddle with the domestic affairs of the household.	☐	☐	☐	☐	☐
9	When a couple is invited to a party, the wife not the husband should accept or decline the invitation.	☐	☐	☐	☐	☐
10	A husband should leave the care of young babies to his wife.	☐	☐	☐	☐	☐
11	The family home will run better if the father, rather than the mother, sets the rules for the children.	☐	☐	☐	☐	☐
12	It should be the mother's responsibility, not the father's, to plan the young child's birthday party.	☐	☐	☐	☐	☐
13	When a child awakens at night, the mother should take care of the child's needs.	☐	☐	☐	☐	☐
14	It is more appropriate for a mother, rather than a father, to change their baby's diapers.	☐	☐	☐	☐	☐
15	Women have as much ability as men to make major business decisions.	☐	☐	☐	☐	☐

16	The entry of women into traditionally male jobs should be discouraged.	☐	☐	☐	☐	☐
17	Expensive job training should be given mostly to men.	☐	☐	☐	☐	☐
18	It is wrong for a man to enter a traditionally female career.	☐	☐	☐	☐	☐
19	Women are just as capable as men to run a business.	☐	☐	☐	☐	☐
20	It is worse for a woman to get drunk than for a man.	☐	☐	☐	☐	☐
21	When it comes to planning a party, women are better judges of which people to invite.	☐	☐	☐	☐	☐
22	A woman should be careful not to appear smarter than the man she is dating.	☐	☐	☐	☐	☐
23	Women are more likely than men to gossip about people they know.	☐	☐	☐	☐	☐
24	When two people are dating, it is best if they base their social around the man's friends.	☐	☐	☐	☐	☐
25	Home economic courses should be as acceptable for male students as for female students.	☐	☐	☐	☐	☐
26	High school counselors should encourage qualified women to enter technical fields like engineering.	☐	☐	☐	☐	☐
27	Men and women should be given an equal chance for professional training.	☐	☐	☐	☐	☐
28	Men and women should be treated the same when applying for student loans.	☐	☐	☐	☐	☐
29	Equal opportunity for all jobs regardless of sex is an ideal we should all support.	☐	☐	☐	☐	☐

III. Questionnaire about improving working environment for women

		Strongly Disagree	Disagree	Neutral or undecided	Agree	Strongly agree
30	Do you think women should aim leadership position regardless of their occupation?	☐	☐	☐	☐	☐
31	Do you think to enhance organizational support offering benefits that can help women employee enhance quality of work life?	☐	☐	☐	☐	☐
32	Do you think men and women should work shoulder to shoulder in the same place and both are contributing their parts equally?	☐	☐	☐	☐	☐
33	Do you think women have fewer opportunities for getting position than men?	☐	☐	☐	☐	☐
34	Do you agree that women continue their work career throughout their lifetime?	☐	☐	☐	☐	☐

IV. Questionnaire about Self-efficacy Scale

How well do these descriptions fit you as a person?

	Does not fit	Fits a little bit	Fits quite well	Fits perfectly
35 I am always able to solve difficult problems, if I try hard enough.	☐	☐	☐	☐
36 If people work against me, I find a way of achieving what I want.	☐	☐	☐	☐
37 It is easy for me to stick to my plans and reach my objectives.	☐	☐	☐	☐
38 I feel confident that I can handle usually find several way of solving it.	☐	☐	☐	☐
39 When I have a problem, I can usually find several ways of solving it.	☐	☐	☐	☐
40 Regardless of what happens, I usually manage.	☐	☐	☐	☐

V. Questionnaire about how to deal with every-day difficulties

Choose the answer that best fits you.

41. Do you ever feel tired or depressed because of study or work?

☐ Not at all ☐ No more than usual ☐ Rather more than usual ☐ Much more than usual

42. Have you felt you couldn't overcome your difficulties?

☐ Not at all ☐ No more than usual ☐ Rather more than usual ☐ Much more than usual

43. Have you been losing confidence in yourself?

☐ Not at all ☐ No more than usual ☐ Rather more than usual ☐ Much more than usual

44. When you face up with problems from your study or work which you cannot solve, how do you manage to solve it? (Check up to three answers)

☐ Talk to colleagues or seniors	☐ Discuss with supervisor	☐ Keep trying work/research
☐ Try to find any solution by yourself	☐ Try to find easier way	☐ Postpone your decision
☐ Sleep or eat	☐ Do shopping	☐ Listen to music
Others:		

45. Do you feel your study or work life and personal life is balanced?

☐ Strongly Disagree ☐ Disagree ☐ Neutral or undecided ☐ Agree ☐ Strongly agree

46. In order to improve your problems, what kinds of policies do you want from your organizations?
(Free Answer)



Thank you very much for your time.

Submit

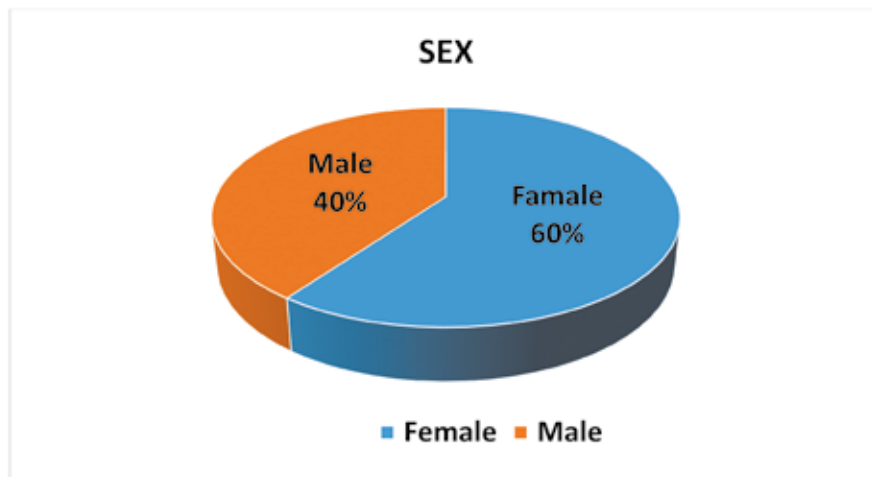
© DDU. All Rights Reserved.

アンケート結果の分析



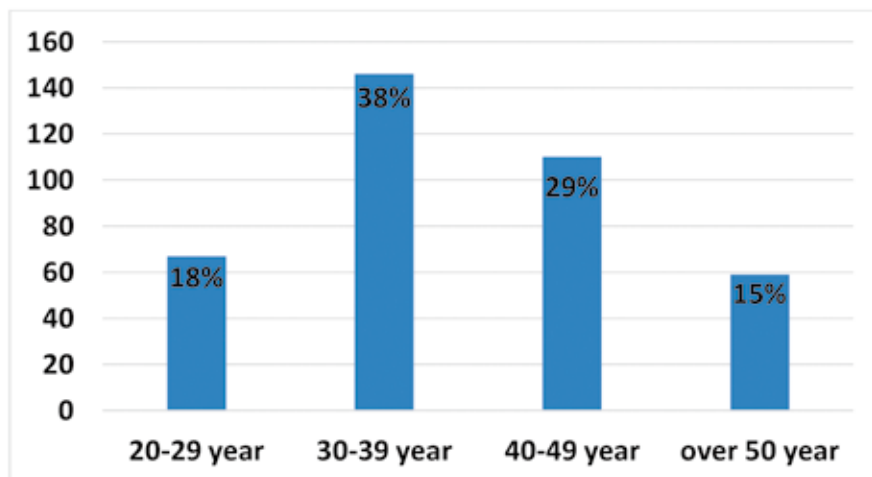
Question I : 基本属性(General Questionnaire)

1. 性別 (Gender)



60% of the participants were female who were more interested in this project, which is 'improving working environment for women'. However, as 40% of the participants were male, both male and female are interested in this project.

2. 年齡 (Age)



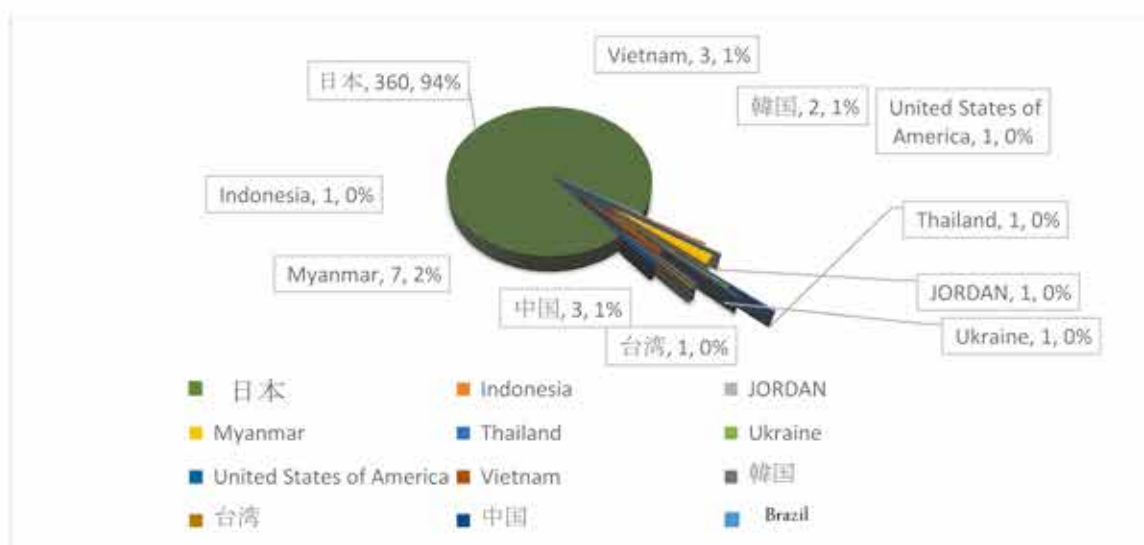
Of the total 382 participants, the majority, 38% were from age of 30-39 years old. It can be inferred that all ages participate exhaustively. Each age group were well represented.

3. 職業(Occupation)



Graduate students, faculty and administrative staff compromise **29%**, **33%** and **34%** respectively. Assumed that **faculties** and **administrative staff** were more interested in this project than others.

4. 出身国(Country of Origin)



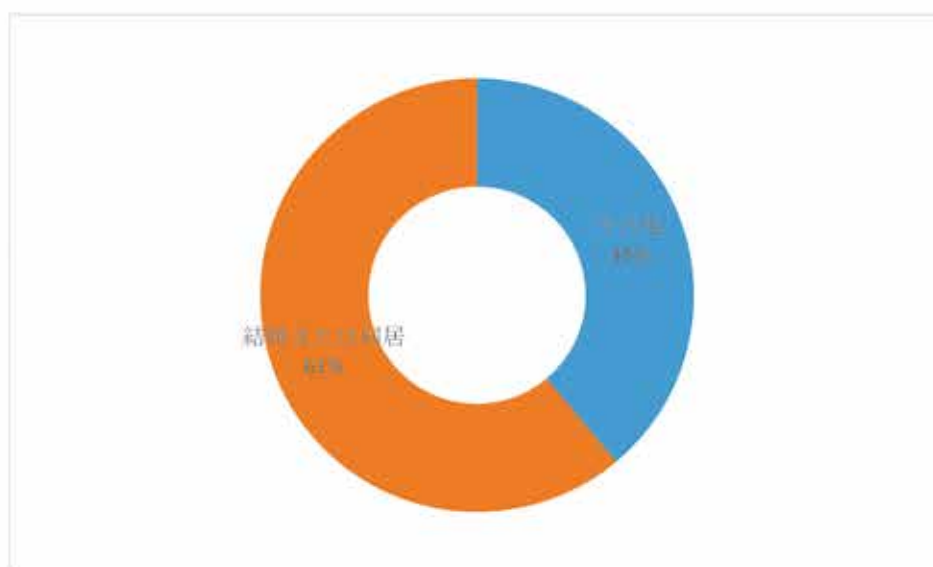
94% of the participants are **Japanese** and the rest are from different countries.

5. 所属機関



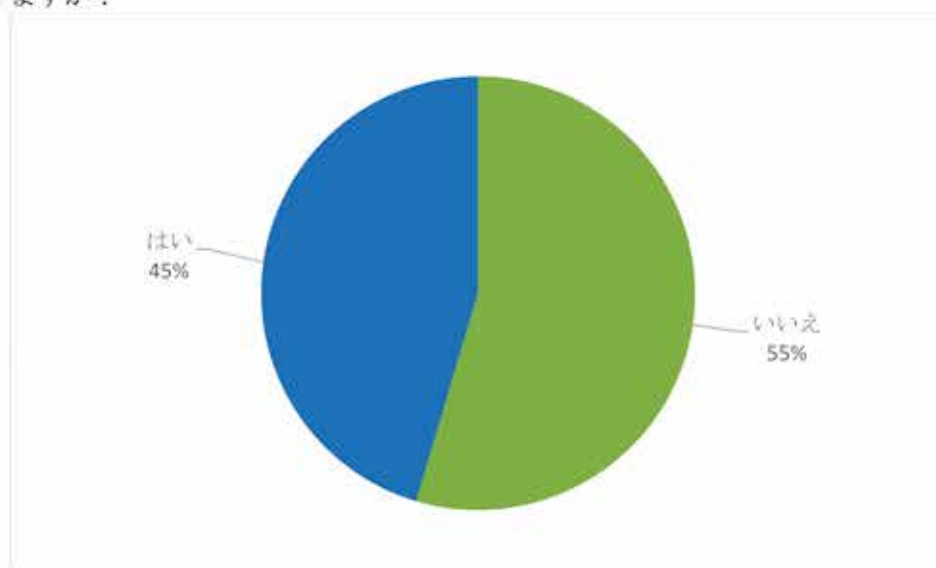
東京医科歯科大学の回答者は 67%、順天堂大学の回答者は 32%、株式会社ニッピの回答者は 1%であった。

6. 婚姻状況



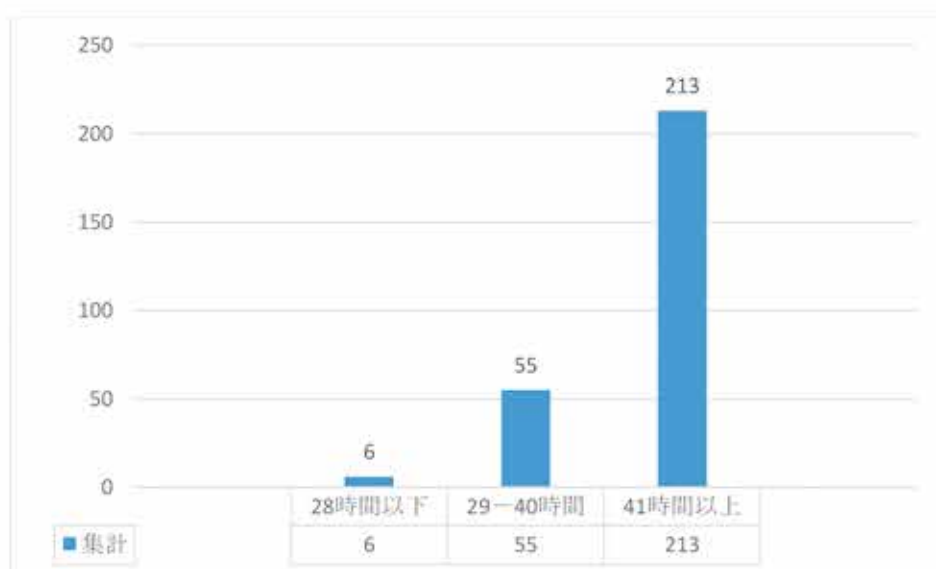
参加者の 61%が結婚またはパートナーと同居しており、39%がその他であった。

7. 子どもはいますか？



子どもがいると回答したのは45%、いないと回答したのは55%であった。

8. 週に平均何時間働いていますか？



週に平均 41 時間以上働いている回答者が最も多かった。

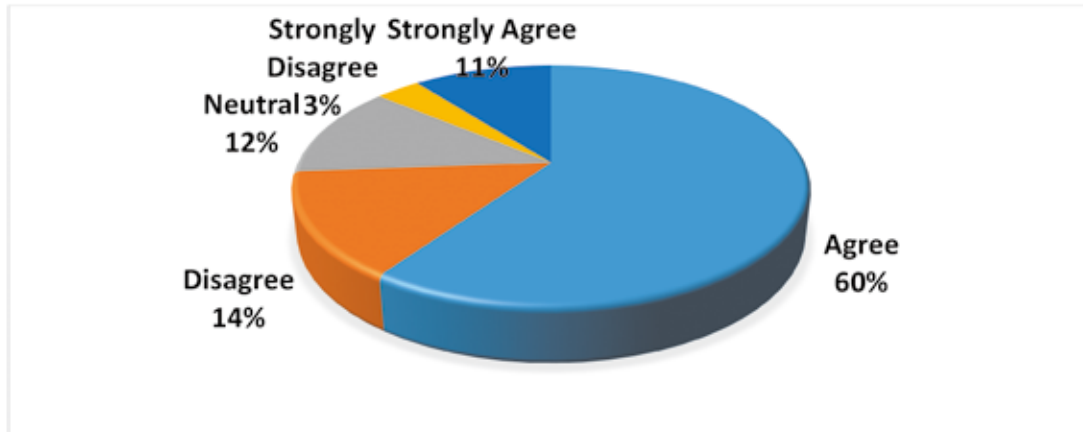
9. 大学院生のみお答え下さい。毎日平均何時間勉強していますか？



大学院生の勉強時間は、平均 1 ～ 9 時間であった。

Question II : 男女役割平等意識 (Questionnaire about gender role attitude)

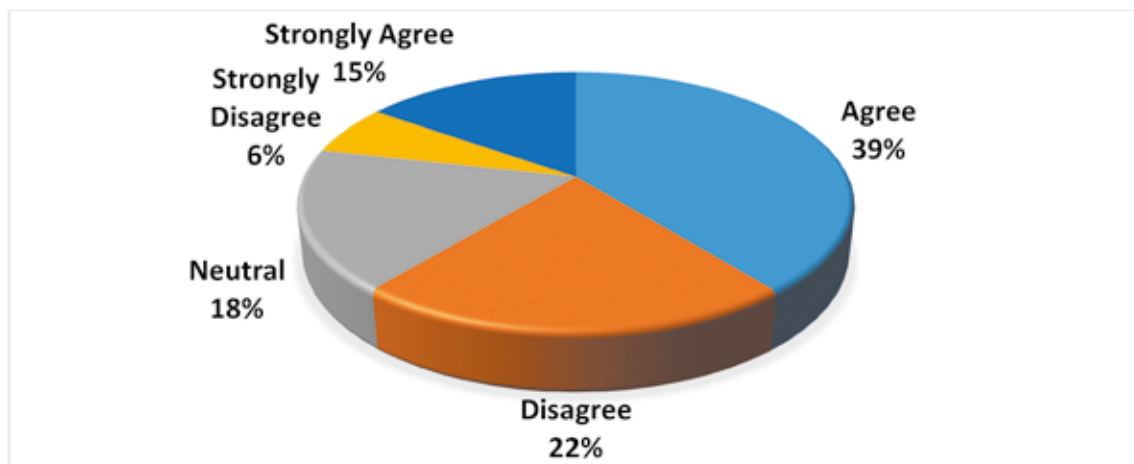
II.1 Were there changes in social role of women in the past 10 years in your country?



Our data shows that most people answered they "Agree"(60%), followed by "Disagree" (14%), "Neutral"(12%), "Strongly Agree"(11%) and "Strongly Disagree"(3%).

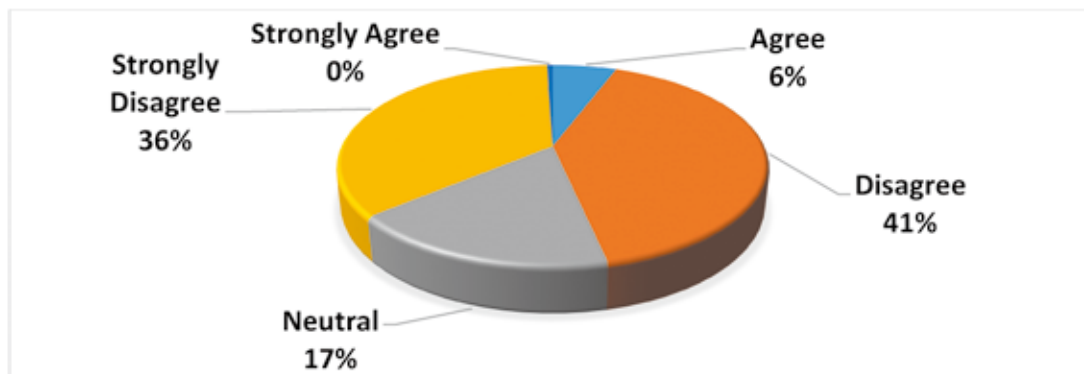
Reasons for majority of the respondents choosing "Agree" might include increasing number of educated women all over the world, better working environments for women and presence of laws that protect women are present. Reason for "Disagree" might be some countries have been struggling with war and crisis for a long time and sadly, the role of women in these countries are not given importance for several decades.

II.2 Do you think the role of men will still be prominent over women in future societies?



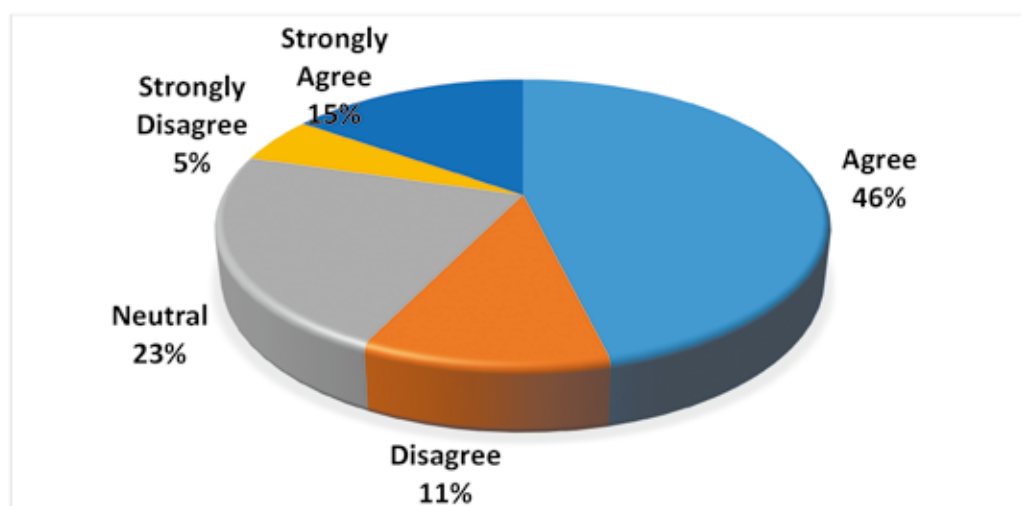
Most people answered they "Agree"(39%), followed by "Disagree" (22%), "Neutral"(18%), "Strongly Agree"(15%) and "Strongly Disagree"(6%). Reason of "Agree" might be many to suppose, some of which can be the fact that women are physically weaker than men and the reason of "Disagree" may be the fact that men have shorter life expectancy than female.

II.3 Do you think women should live their whole life as general helpers to their husbands and kids?



Most people answered they "**Disagree**"(41%), followed by "**Strongly disagree**"(36%), "**Neutral**"(17%), "**Agree**"(6%) and "**Strongly Agree**" (0%). Reason of "**Disagree**" might be many to suppose, some of including to working mothers can add extra income to support the family, working keeps women connected to the larger world and increase in the number of intellectual women. The reason for "**Agree**" may be stay-at home mothers believe that they can better shape their children into who they are.

II.4 Do you think women are the basic fundamentals of family and play their roles as main contributors in building a strong family?



"Most people answered they "**Agree**"(46%), followed by "**Neutral**" (23%), "**Strongly Agree**"(15%), "**Disagree**"(11%) and "**Strongly Disagree**"(5%). Reason of "**Agree**" might be many to suppose, some of which can be the fact that women provide required structures and balance in a family. Meanwhile the reason of "**Disagree**" may be some people think that men and women are equal and women should not be the only basic fundamentals in a family.

結果と分析：Ⅱ-5～Ⅱ-29

※ここでは、基本属性の分布と男女役割平等意識(SRES)のスコアについて、外国人と日本人との比較を示す。

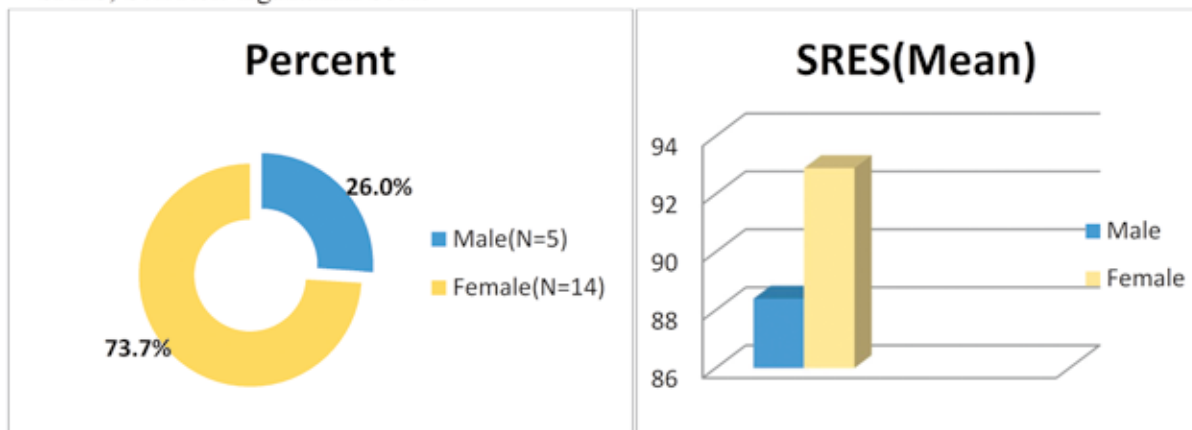
性別

Gender

Foreign sample

	Percent		SRES(Mean)	SD
Male(N=5)	26.0%	Male	88.4	18.9
Female(N=14)	73.7%	Female	92.9	11.3

*SRES; Sex Role Egalitarian Scale

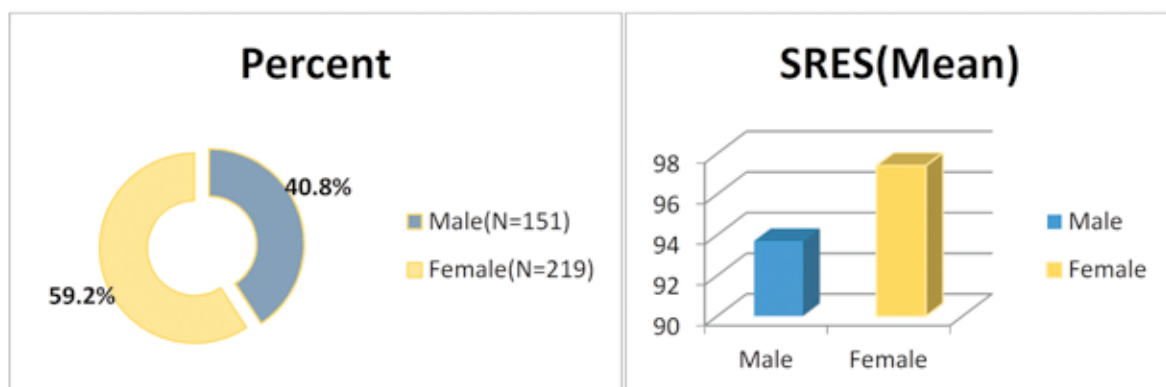


外国人においては、性別の分布は男性「26.0%」、女性「73.7%」と女性の対象者の方が多く、SRES Score も女性の方が男性よりも高かった。男女の SRES Score の平均の差は「4.52」であった。

Japanese sample

	Percent		SRES(Mean)	SD
Male(N=151)	40.8%	Male	93.7	12.1
Female(N=219)	59.2%	Female	97.4	11.4

*SRES; Sex Role Egalitarian Scale



日本人においては、性別の分布は男性「40.8%」、女性「59.2%」と女性の対象者の方が多く外国人と同じ傾向であり、男女役割平等意識も女性の方が男性よりも高かった。平均の差は「3.71」で外国人よりは差が少なかった。

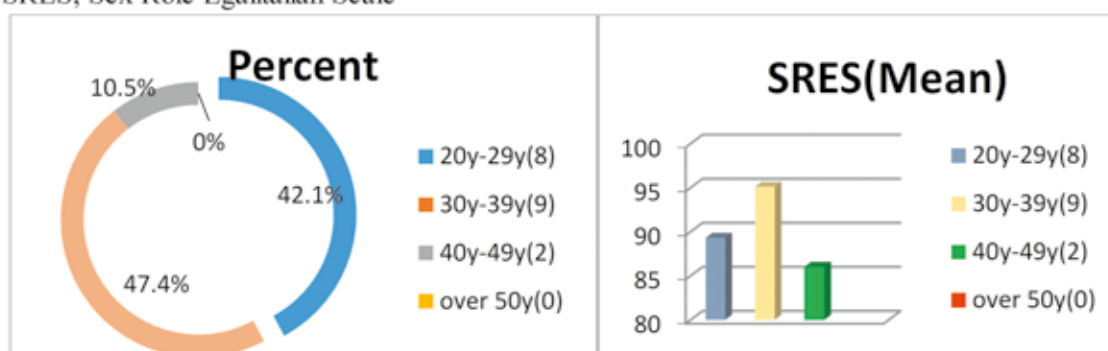
年齢

Age

Foreign sample

Year(N)	Percent		SRES(Mean)	SD
20y-29y(8)	42.1%	20y-29y(8)	89.3	8
30y-39y(9)	47.4%	30y-39y(9)	95.1	9
40y-49y(2)	10.5%	40y-49y(2)	86	2
over 50y(0)	0.0%	over 50y(0)		

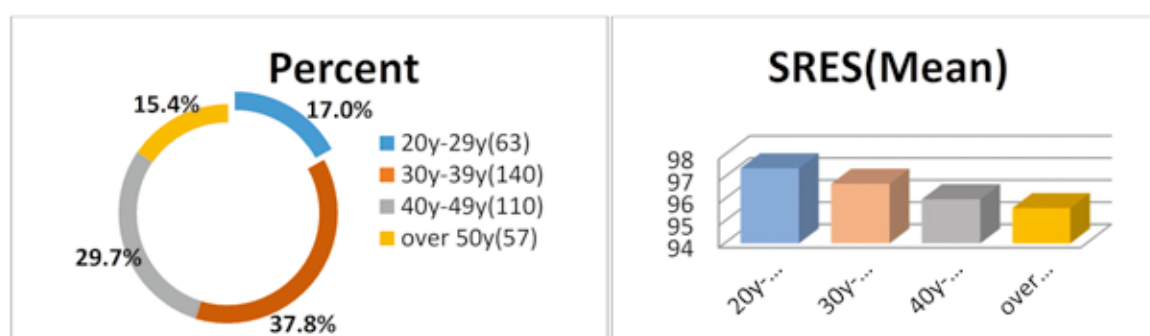
*SRES; Sex Role Egalitarian Scale



外国人においては、年齢の分布は 20 代が「42.1%」、30 代が「47.4%」、40 代が「10.5%」であった。SRES Score は 30 代が一番高く、次に 20 代、40 代の順であった。平均が一番高い 30 代との差は、20 代が「5.74」、40 代が「9.11」と大きな差があった。

Japanese sample

Year(N)	Percent		SRES(Mean)	SD
20y-29y(63)	17.0%	20y-29y(63)	97.4	12.6
30y-39y(140)	37.8%	30y-39y(140)	96.7	12.3
40y-49y(110)	29.7%	40y-49y(110)	96.0	11.1
over 50y(57)	15.4%	over 50y(57)	95.6	11.3



日本人においては、年齢の分布は 30 代の対象者が一番多く、次に 40 代、20 代、50 歳以上の順であった。SRES Score は 20 代が一番高く、次に 30 代、40 代、50 歳以上の順であった。一番平均の高い 20 代との差は 30 代が「0.77」、40 代が「1.41」、50 歳以上が「1.83」を示していた。

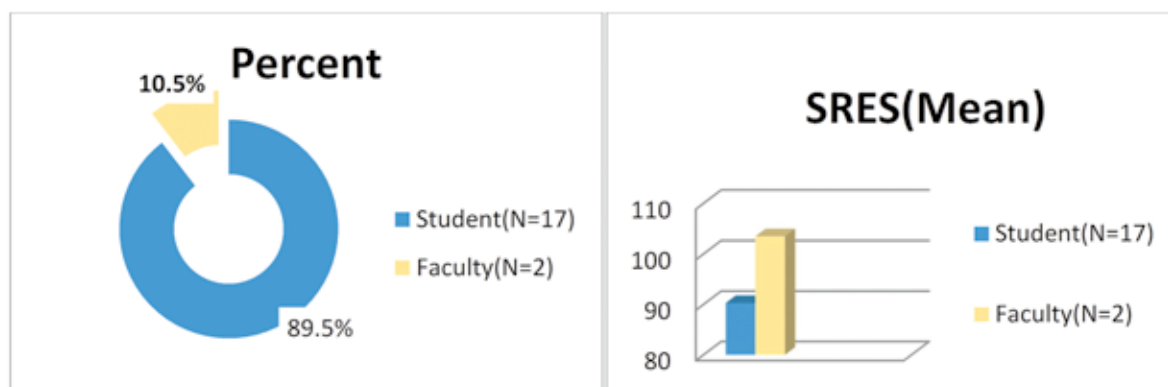
身分（職業）

Position

Foreign sample

	Percent		SRES(Mean)	SD
Student(N=17)	89.5%	Student(N=17)	90.3	13.0
Faculty(N=2)	10.5%	Faculty(N=2)	103.5	12.0

*SRES; Sex Role Egalitarian Scale

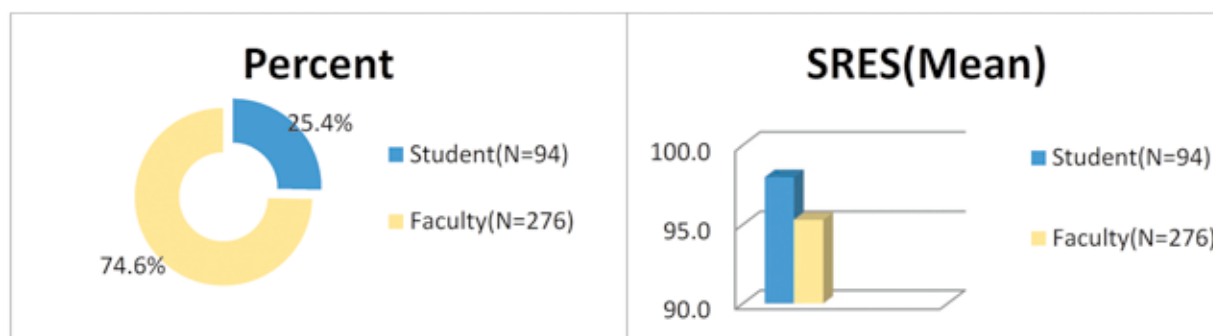


外国人において、身分（職業）に関する分布は、学生が「89.5%」、教職員が「10.5%」であった。SRES Score は、教職員が「103.5」、学生が「90.35」と教職員の平均が高く、平均の差は「13.15」であった。

Japanese sample

	Percent		SRES(Mean)	SD
Student(N=94)	25.4%	Student(N=94)	98.0	12.4
Faculty(N=276)	74.6%	Faculty(N=276)	95.30	11.6

*SRES; Sex Role Egalitarian Scale



日本人において、身分（職業）の分布は学生が「25.4%」、教職員が「74.6%」であった。SRES Score は、教職員の平均が「95.38」、学生が「98」であり、平均の差は「2.62」であった。

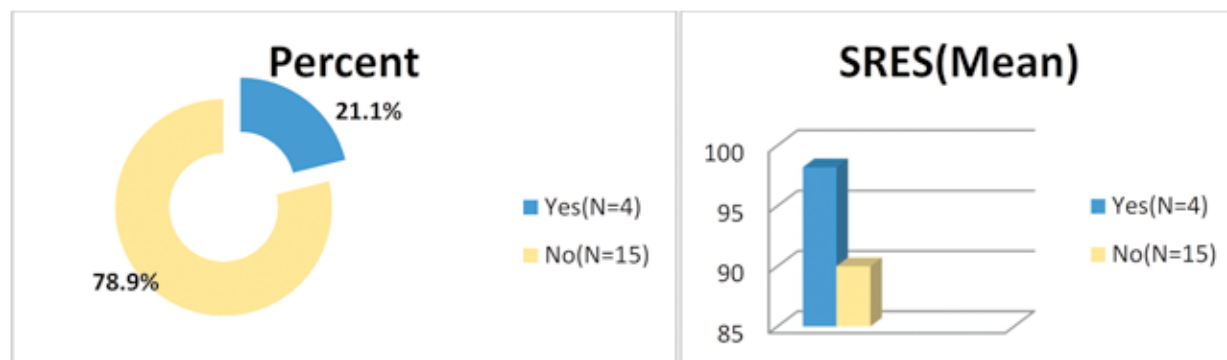
結婚

Marital

Foreign sample

	Percent		SRES(Mean)	SD
Yes(N=4)	21.1%	Yes(N=4)	98.2	7.8
No(N=15)	78.9%	No(N=15)	90.0	14.1

*SRES; Sex Role Egalitarian Scale

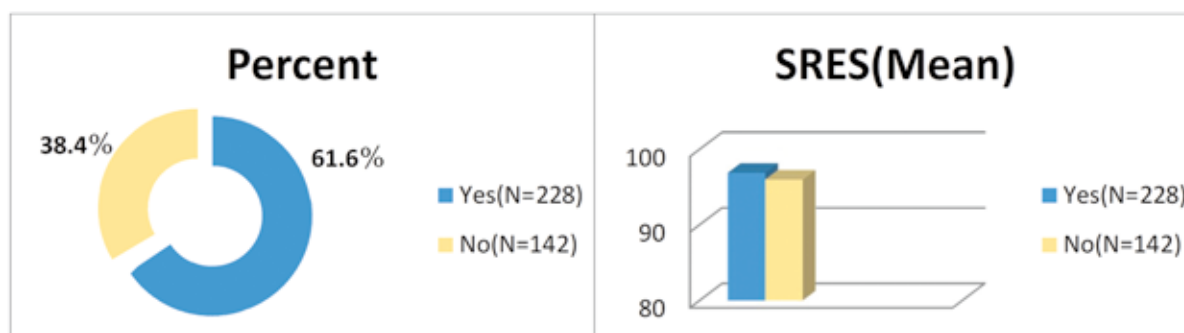


外国人において、婚姻状況の分布では対象者の 21.1%が結婚または同居していて、SRES Score においては、結婚または同居しているグループの平均が未婚グループよりも「8.25」高かった。

Japanese sample

	Percent		SRES(Mean)	SD
Yes(N=228)	61.6%	Yes(N=17)	96.1	12.0
No(N=142)	38.4%	No(N=2)	95.7	11.7

*SRES; Sex Role Egalitarian Scale



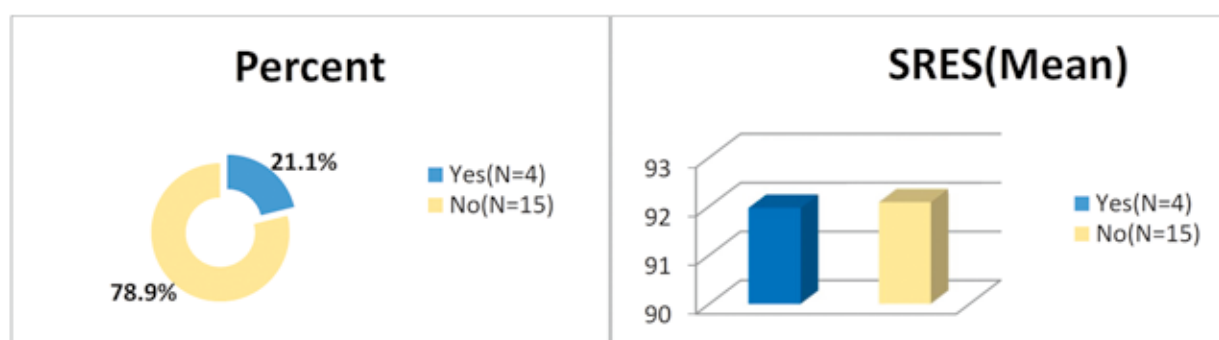
日本人において、婚姻状況の分布では結婚または同居しているグループが「61.6%」、その他が「38.4%」であった。SRES Score は外国人グループと同じく、結婚または同居しているグループの平均が「96.12」、未婚グループの平均が「95.73」であった。平均の差は 0.39 であり、格差は少なかった。

子供
Parental

Foreign sample

	Percent		SRES(Mean)	SD
Yes(N=4)	21.1%	Yes(N=4)	91.5	17.4
No(N=15)	78.9%	No(N=15)	91.8	12.7

*SRES; Sex Role Egalitarian Scale

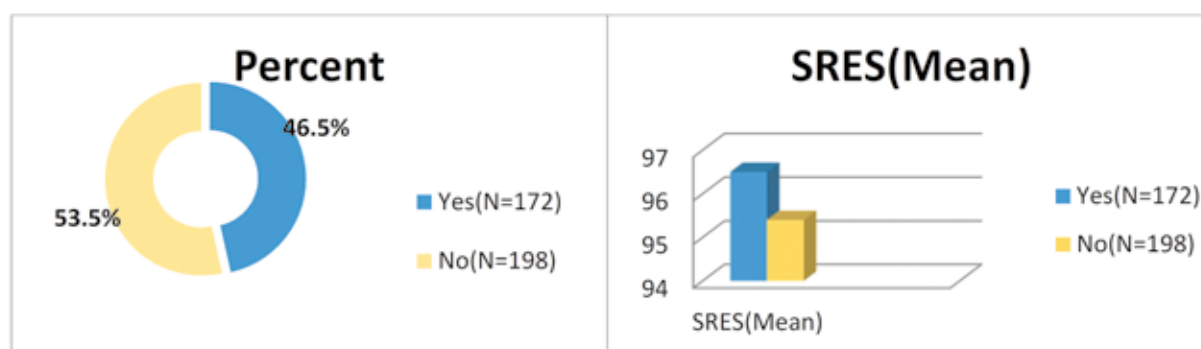


外国人において、子どもがいる対象者の分布は「21.1%」、いない対象者は「78.9%」であった。SRES Score の比較では子どもがいないグループの平均が「91.80」、子どもがいるグループの平均が「91.50」であり、平均の差は「0.30」で、ほぼ同じ水準を表していた。

Japanese sample

	Percent		SRES(Mean)	SD
Yes(N=172)	46.5%	Yes(N=172)	96.5	11.0
No(N=198)	53.5%	No(N=198)	95.4	12.5

*SRES; Sex Role Egalitarian Scale



日本人において、対象者の分布は、子どもがいるグループが「46.5%」、いないグループが「53.5%」であり、子どもがいないグループがやや多かった。SRES Score の比較では、子どものいるグループの平均が「96.56」、子どもがいないグループの平均が「95.45」であり、平均の差は「1.11」であった。

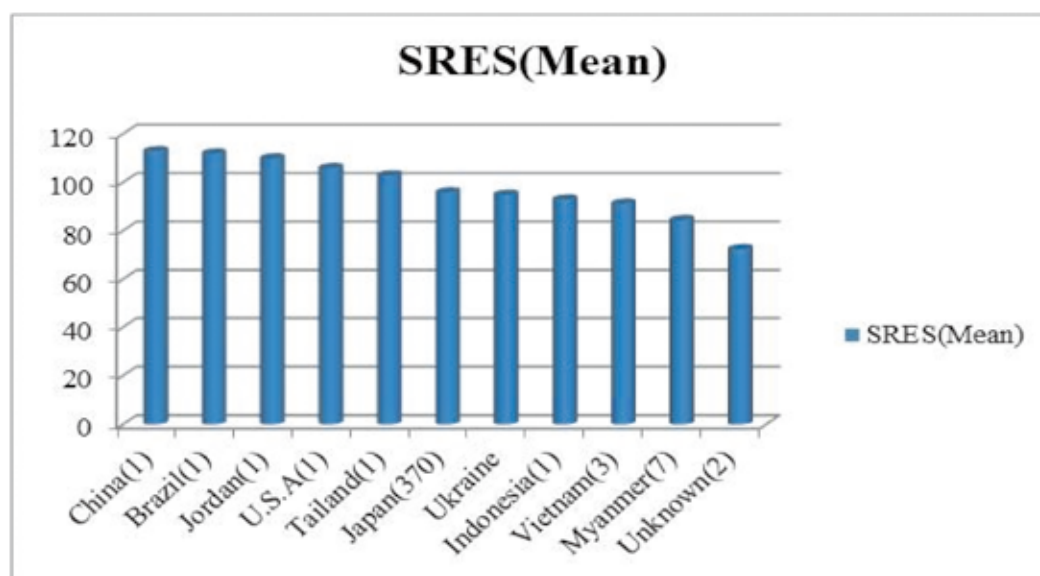
出身国による対象者の男女役割平等意識 (SRES) 平均の比較

● SRES Mean's Comparison by Country of participants

Country (N)	Percent	Country (N)	SRES(Mean)	SD
China(1)	5.3	China(1)	113	.
Brazil(1)	5.3	Brazil(1)	112	.
Jordan(1)	5.3	Jordan(1)	110	.
U.S.A(1)	5.3	U.S.A(1)	106	.
Tailand(1)	5.3	Tailand(1)	103	.
Japan(370)	100	Japan(370)	95.97	95.97
Ukraine(1)	5.3	Ukraine	95	.
Vietnam(3)	15.8	Vietnam(3)	91.33	10.96
Indonesia(1)	5.3	Indonesia(1)	93	.
Myanmar(7)	36.8	Myanmar(7)	84.57	6.77
Unknown(2)	10.5	Unknown(2)	72.5	6.36

* SRES; Sex Role Egalitarian Scale

Note. The highest possible score is 125 (quality and the lowest possible score is zero (inequality)



SRES Score の平均は、中国の回答者の平均が一番高く、次に Brazil, Jordan, USA, Thailand, Japan, Ukraine, Indonesia, Vietnam, Myanmar の順であった。日本は参加国の中では中間の水準で、平均の一番高い中国の「113」と一番平均の低いミャンマーとの差は「28.43」であり、大きな開きがあった。

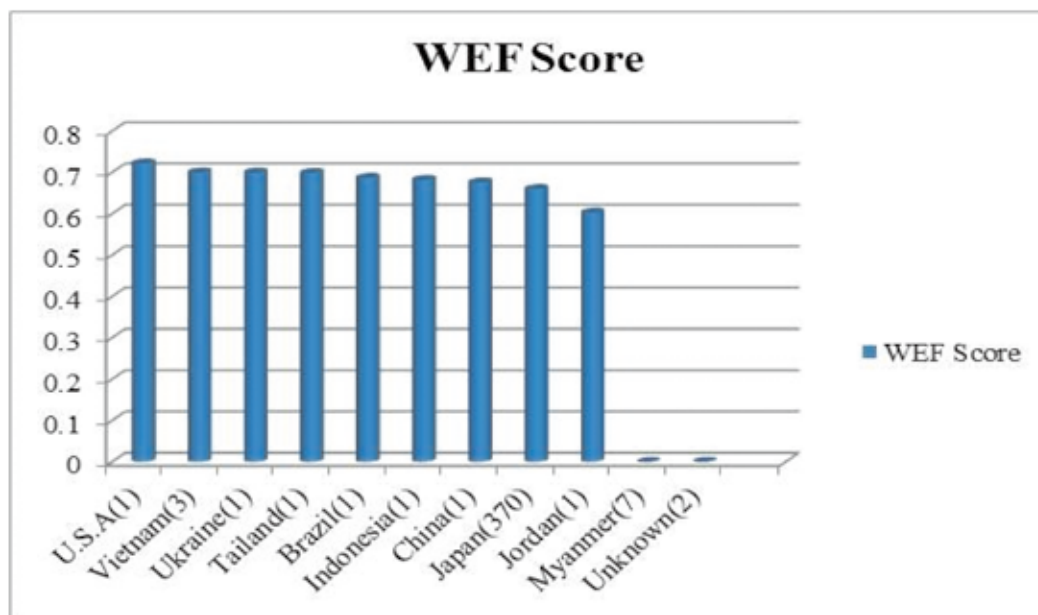
2016 Word Economic for Score & Rankings : (From global Gap Index 2016)

The Global Gender Gap Index reveals that all countries can do more to close the gender gap. Across the index, there are only five countries that have closed 80% of the gap or more. In addition, 64 countries have closed between 70% and 80% of their gender gap. Further 65 countries have closed between 60% and 70%, while 10 countries have closed between 50% and 60%. In 2016, no country had closed less than 50% of their overall gender gap. However, there is wide variety in progress on closing the gender gap in every world region, with both success stories and underperforming countries in each.

● Word Economic Form Score

Country (N)	Percent	Country (N)	WEF Score	Rankings
China(1)	5.3	U.S.A(1)	0.722	45
Brazil(1)	5.3	Vietnam(3)	0.7	65
Jordan(1)	5.3	Ukraine(1)	0.7	69
U.S.A(1)	5.3	Tailand(1)	0.699	71
Tailand(1)	5.3	Brazil(1)	0.687	79
Japan(370)	100	Indonesia(1)	0.682	88
Ukraine(1)	5.3	China(1)	0.676	99
Vietnam(3)	15.8	Japan(370)	0.66	111
Indonesia(1)	5.3	Jordan(1)	0.603	134
Myanmar(7)	36.8	Myanmar(7)	No. data	No. data
Unknown(2)	10.5	Unknown(2)	No. data	No. data

* WEF: The highest possible score is 1 (equality) and the lowest possible score is 0 (inequality)

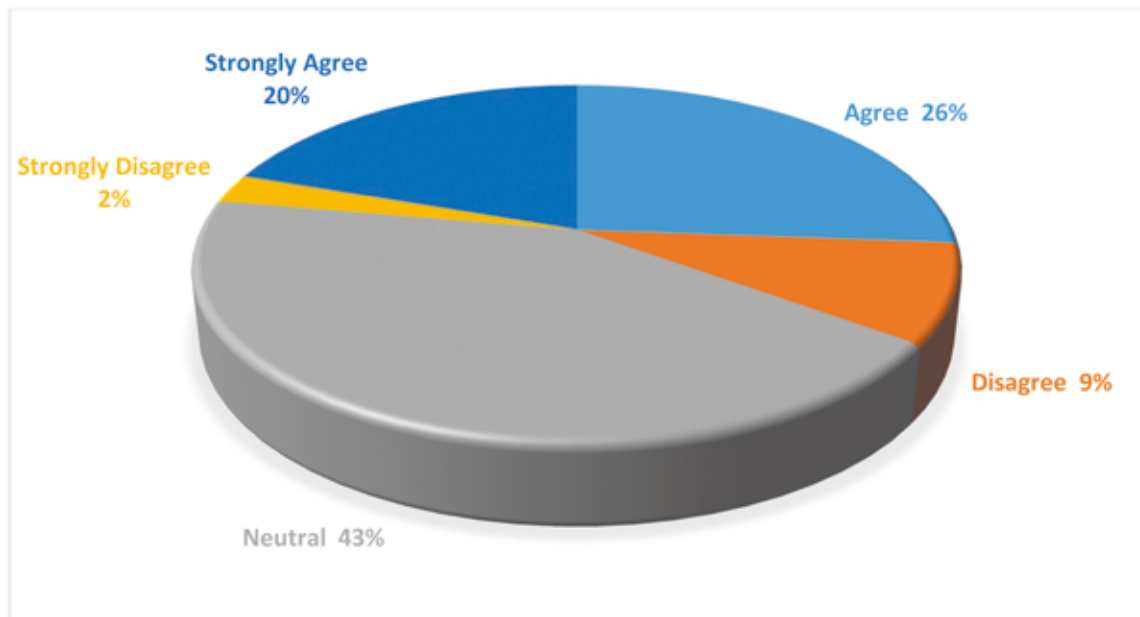


Note. Myanmar は、Global Gap Index2016 の順位に情報がはっていなかったのので、「0」の表記になっている。

SRES Score と Gender Gap の水準を表す WEF Score は一致していない。回答者の出身国の WEF Score を見ると U.S.A.（世界ランキングは 45 位）が一番高く、Jordan（世界ランキングは 134 位）の順位が一番低い。日本の世界ランキングは 144 か国の中で 111 位であった。

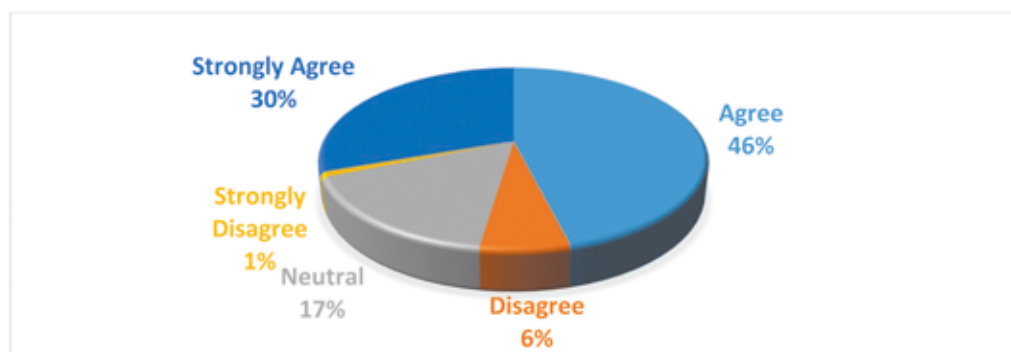
III. Questionnaire about improving working environment for women

III-30. Do you think women should aim leadership position regardless of their occupation?



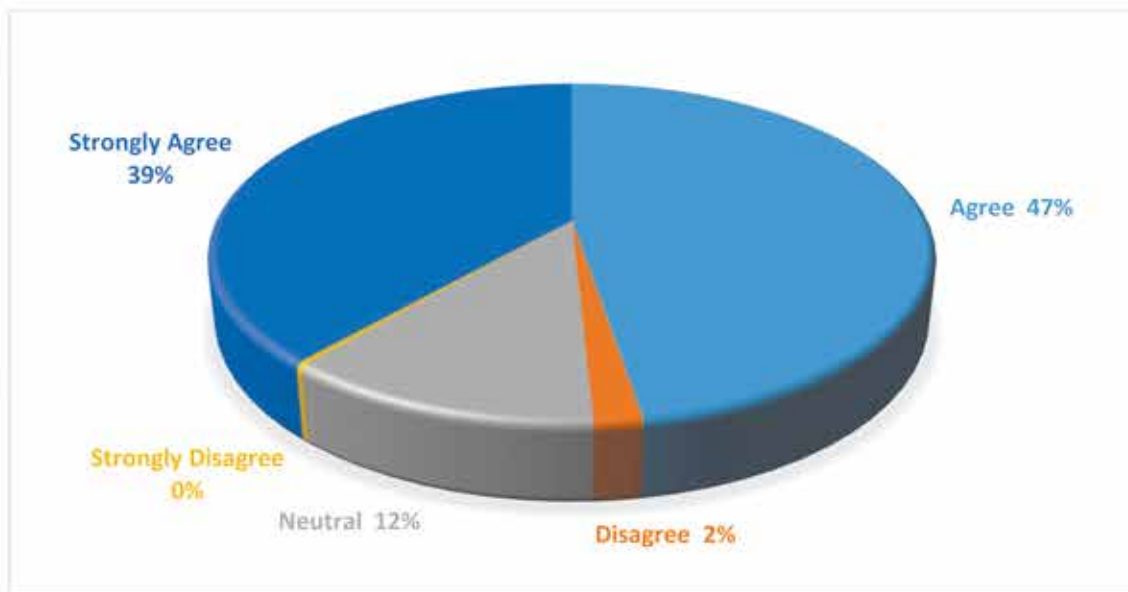
Most people (43%) answered "Neutral", followed by "Agree"(26%), "Strongly Agree"(20%), "Disagree"(9%) and "Strongly Disagree"(2%). Reason of "Agree" may be that women are empathetic, with strong communication and flexible in nature which are essential in leadership. Reason of "Disagree" may be that some people think women leaders are not effective as men in different situations.

III-31. Do you think to enhance organizational support offering benefits that can help women employee enhance quality of life?



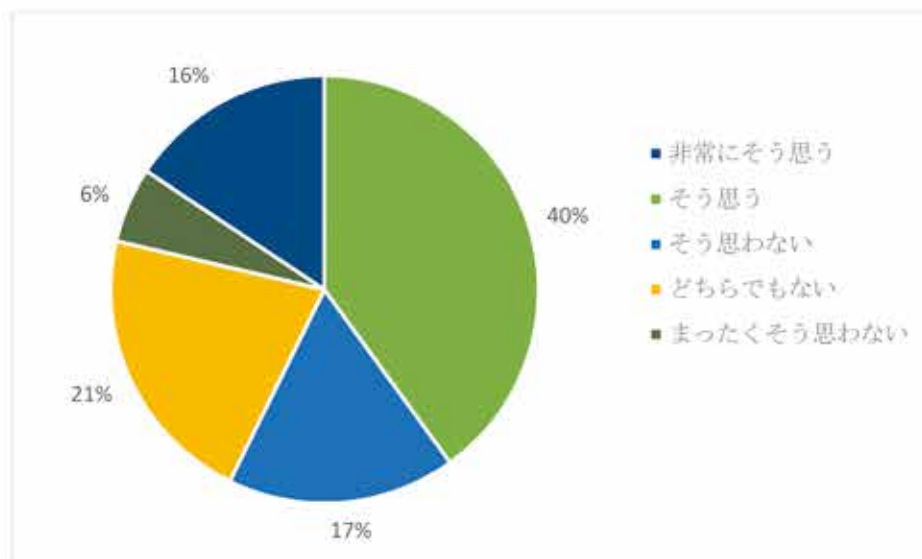
Most people answered they "Agree"(46%), followed by "Strongly Agree"(30%), "Neutral" (17%), "Disagree"(6%) and "Strongly Disagree"(1%). Reason of "Agree" might be many to suppose, some of which can be that removal of barriers to equal participation of women in work can improve national productivity and economic growth.

III-32. Do you think men and women should work shoulder to shoulder in the same place and both are contributing their parts equally?



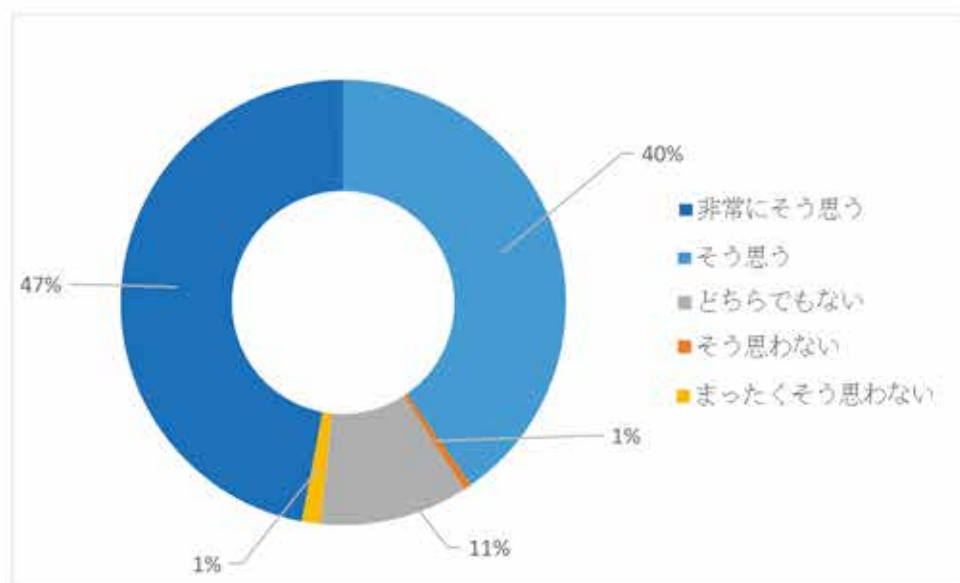
Most people answered they "Agree"(47%), followed by "Strongly Agree"(39%), "Neutral" (12%), "Disagree"(2%) and "Strongly Disagree"(0%). Reason of "Agree" might be many to suppose, some of which can be that works need skills, qualifications and experiences, so women who have enough abilities to achieve defined goals can work shoulder to shoulder with men in the same place.

III-33. 女性は男性よりも仕事に就くチャンスが少ないと思いますか？



「非常にそう思う (16%)」と「そう思う (40%)」の回答を合わせると、女性は男性よりも仕事に就くチャンスが少ないと思う割合が多かった。

Ⅲ-34. 女性が一生を通してキャリアを積んで行くことに同意しますか？

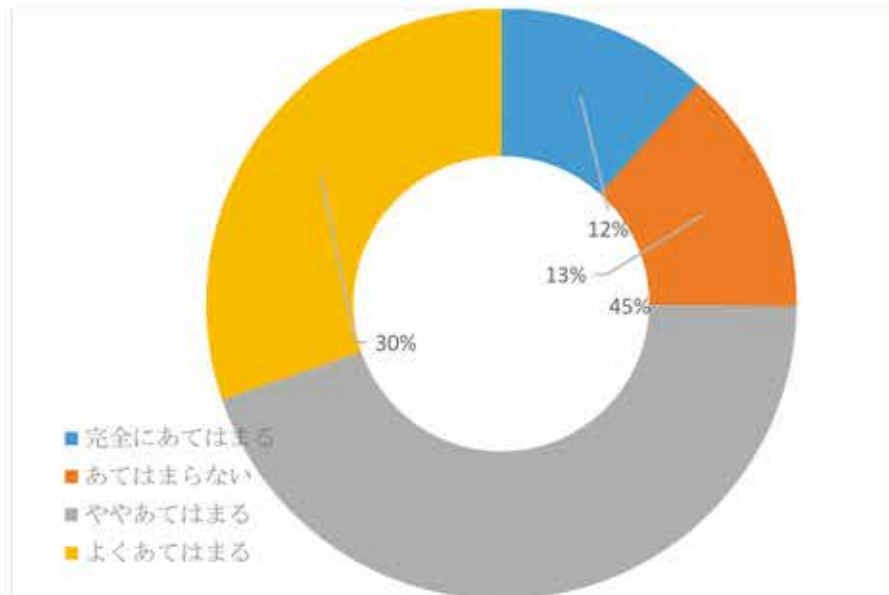


「非常に思う (47%)」と「思う (40%)」の回答を合わせると、女性が一生を通してキャリアを積んで行くことに賛成する割合が多かった。

IV. Questionnaire about Self-efficacy

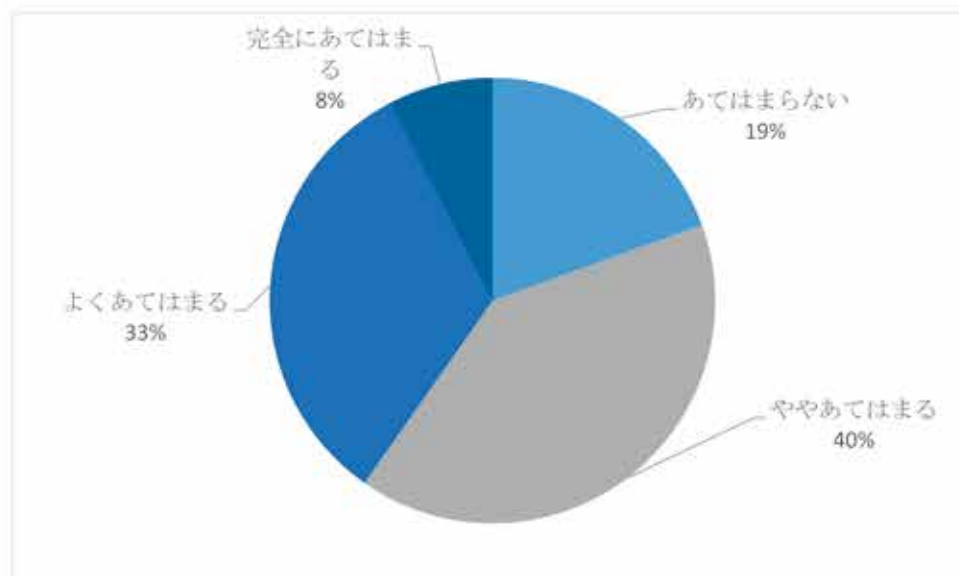
※ここでは、自己効力感に関する回答結果を示す。

IV-35. 私は十分に努力すれば、常に困難を解決できる。



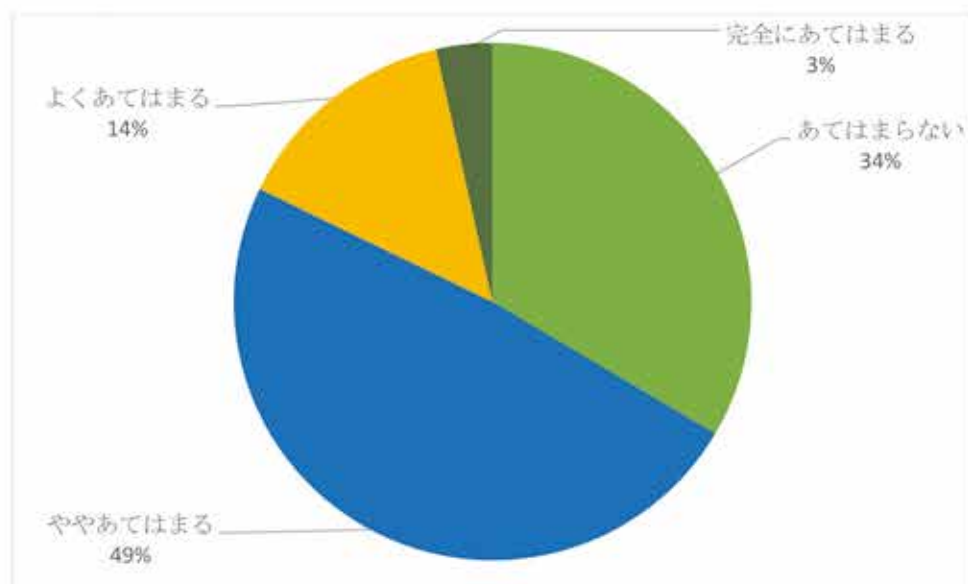
「完全にあてはまる (12%)」「よくあてはまる (30%)」を合わせると、自分が十分に努力すれば、常に困難を解決できると考える回答者が 42%であった。「ややあてはまる」は 45%であり、これらを合わせると「あてはまらない」よりも「あてはまる」と思う回答者の方が多かった。

IV-36. もし私の仕事が反対されても、私は自分が望む達成方法を見つけることができる。



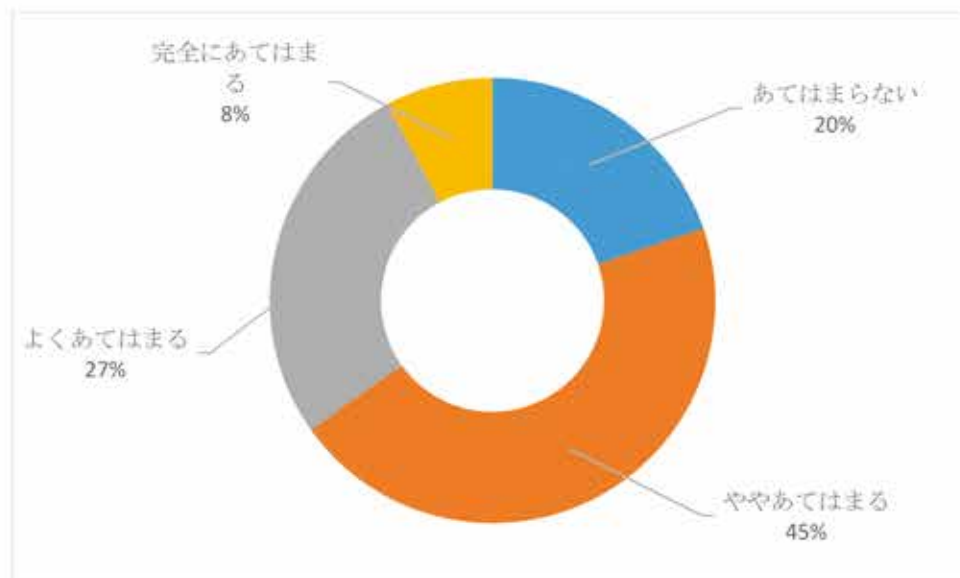
「完全にあてはまる (8%)」「よくあてはまる (33%)」「ややあてはまる (40%)」の回答を合わせると、自分が望む達成方法を見つけることができると考える回答者が 81%であった。

IV-37. 私にとって自分の計画を守り、目標にたどりつくことは簡単である。



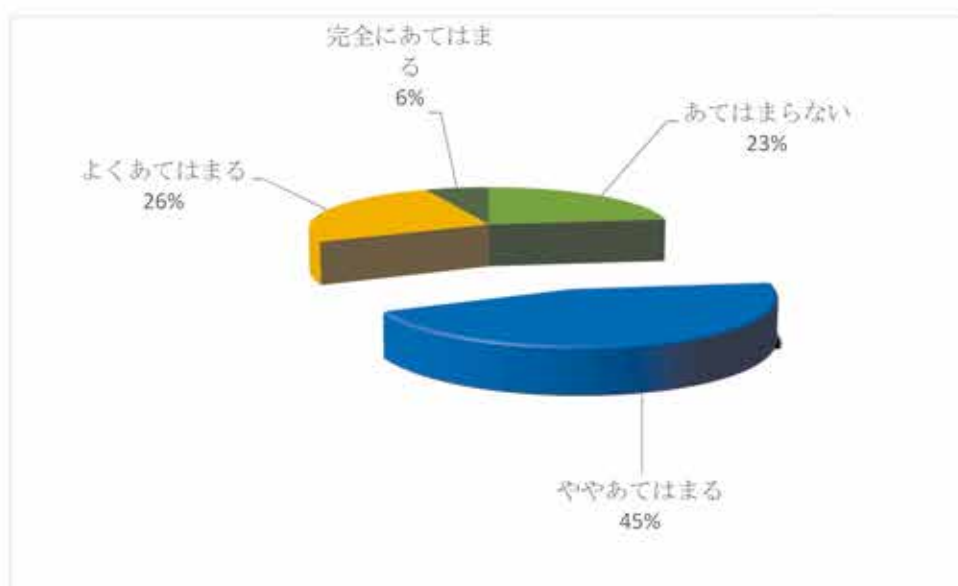
「完全にあてはまる (3%)」「よくあてはまる (14%)」「ややあてはまる (49%)」の回答を合わせると、自分の計画を守り、目標にたどりつけると考える回答者が約 70% であった。

IV-38. 私は、問題解決の複数の方法を見つけることに自信がある。



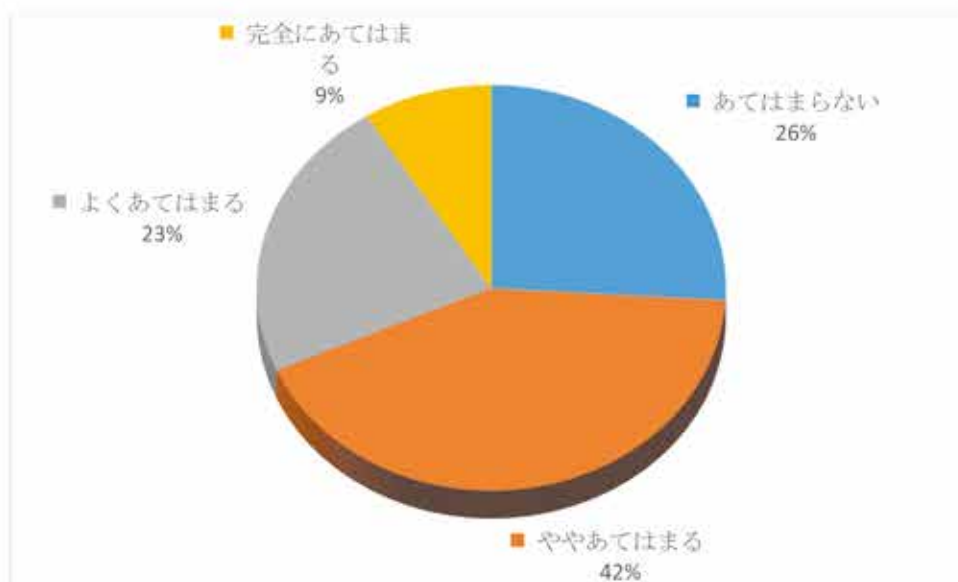
「完全にあてはまる (8%)」「よくあてはまる (27%)」「ややあてはまる (45%)」の回答を合わせると、問題解決の複数の方法を見つけることに自身があると考える回答者は 80% であった。

IV-39. 私に問題があるときは、私は常に複数の解決方法を見つけられる。



「完全にあてはまる (6%)」「よくあてはまる (26%)」「ややあてはまる (45%)」の回答を合わせると、自分に問題があるときは常に複数の解決方法を見つけられると考える回答者は 77% であった。

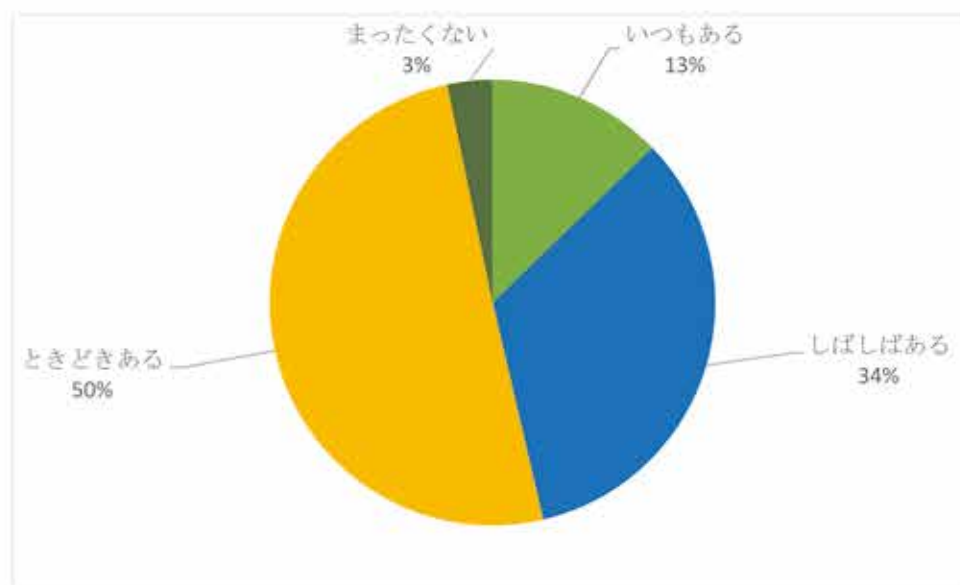
IV-40. 何が起きたとしても、私は常に対応できる。



「完全にあてはまる (9%)」「よくあてはまる (23%)」「ややあてはまる (42%)」の回答を合わせると、何が起きたとしても、常に対応できると考える回答者は 74% であった。

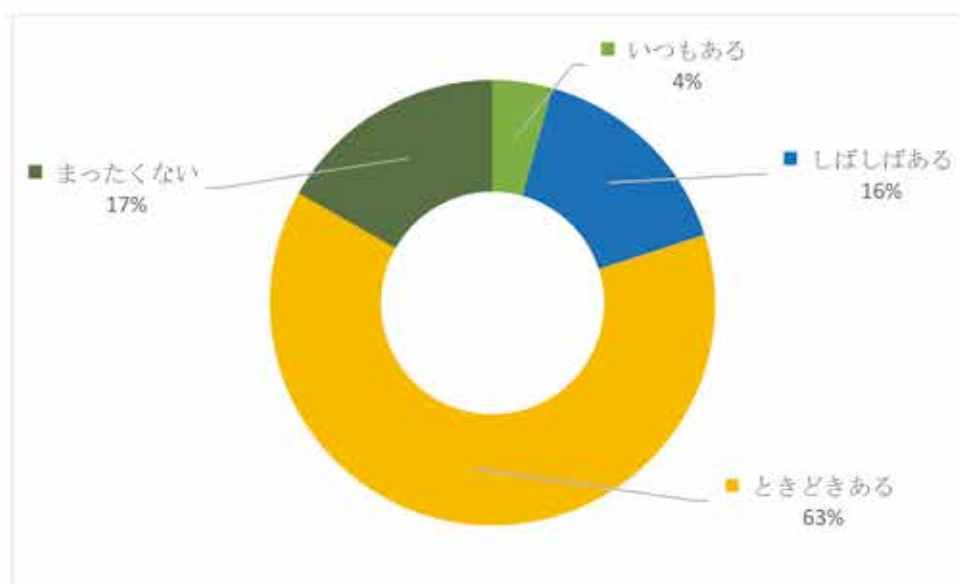
V. 日々の仕事・学業が困難な際の対処方法に関して

V-41. あなたは仕事や勉強のことで疲れたり、憂鬱になることがありますか？



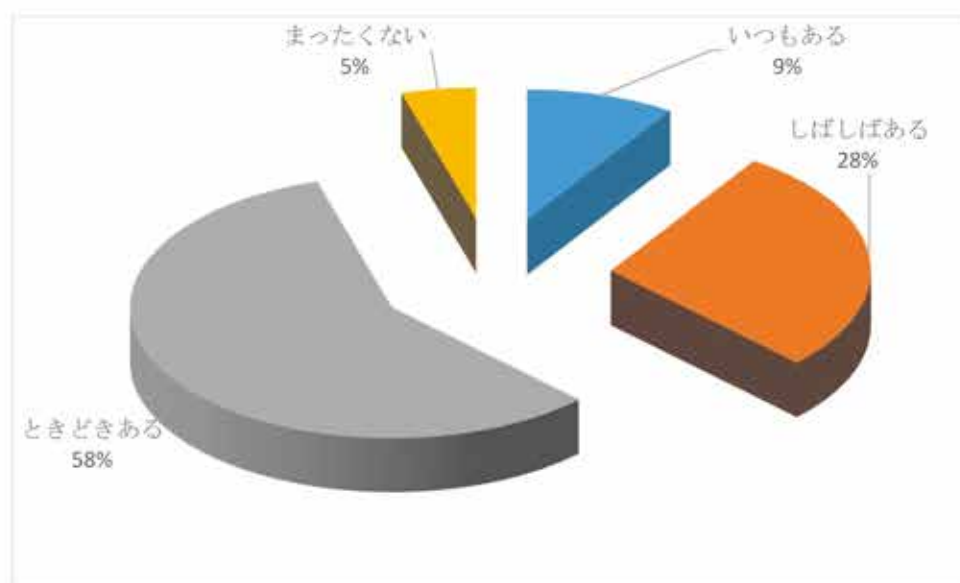
「いつもある (13%)」「しばしばある (34%)」「時々ある (50%)」の回答を合わせると、仕事や勉強のことで疲れたり、憂鬱になることがあると回答した者は 97% であった。

V-42. あなたはこれまで、困難な状況乗り越えられなかったと感じることがありますか？



「いつもある (4%)」「しばしばある (16%)」「時々ある (63%)」の回答を合わせると、これまでに困難な状況乗り越えられなかったと感じる回答者は 83% であった。

V-43. あなたはこれまでに自信をなくしたことがありますか？



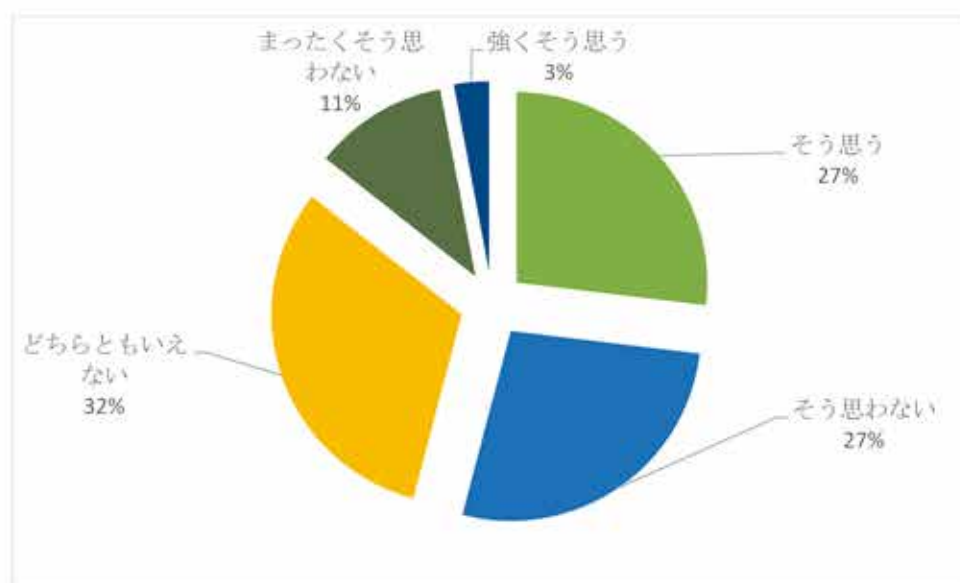
「いつもある (9%)」「しばしばある (28%)」「時々ある (58%)」の回答を合わせると、これまでに自信をなくしたことがあると回答した者は 95% であった。

V-44. 仕事、または勉強で解決し難い問題があった際、どのように対応していますか？（複数回答可、3つまで選択してください）



最も多かったのは「自分で解決策を探す」で、次いで「先輩・同僚に相談する」「上司と相談する」「仕事や勉強をやり続ける」等の順であった。

V-45. あなたの仕事や勉強と、生活とのバランスが取れていると思いますか？



「強くそう思う (3%)」「そう思う (27%)」の回答を合わせると、仕事・勉強と生活とのバランスが取れていると回答した者は 30% であった。反対に、「そう思わない (27%)」「まったくそう思わない(11%)」を合わせると 38%となり、仕事・勉強と生活とのバランスが取れていないと回答した者の方が多かった。

V-46. 問題解決のために所属機関に期待する方策 (自由回答)

“あなた自身の問題を解決するには、あなたの所属機関にどのような方策を期待しますか？”

<会議や講義に関すること>

- ・17時以降の会議の開催を原則なくしてほしい。または18時迄に会議を終了してほしい。
- ・会議に必要なメンバーを厳選してほしい。また、会議・打合せ時間を短縮してほしい。
- ・必須セミナーは勤務時間内に受けられるようにDVD講習等をふやしてほしい。また、オンラインでの授業もふやしてほしい。
- ・フレキシブルに単位を取れる制度が充実するとありがたい。

<勤務に関すること>

- ・次年度の契約をしてもらえるか否かをなるべく早く（できれば2月中旬くらいまでに）教えてほしい。
- ・非常勤医師も雇用保険や共済保険に加入できるようにしてほしい。
- ・男性の家庭への介入が行いやすい環境を作る方策を積極的に推進してほしい。
- ・柔軟な雇用形態の拡充を期待します。
- ・ワーク・ライフ・バランスを「実行する」取り組みを実施してほしい。
- ・業務量に応じた人員配置をしてほしい。
- ・残業時間数や休憩時間数や休暇日数をきちんと守れる環境を整える方策を期待します。
- ・ワークシェアリングなど女性が復帰しやすいシステムが導入されるとよい。

<子育て支援に関すること>

- ・子育てに関する支援や配慮（心配り）をしてほしい。
- ・勤務時間にフレキシブルに対応してもらえるパートタイマーに事務的なサポートを協力していただけるとありがたい。
- ・院内の保育園を充実してほしい。大学院の授業は通常18時以降であるため、大学生や講師のための一時託児システムがほしい。
- ・病児も預けられる保育園を作してほしい。

<悩み相談に関すること>

- ・もっと気軽に色々な年齢や性別の方に相談出来るようなシステムをふやして頂きたい。
- ・キャリアデザインに対するサポートを強化してほしい。
- ・キャリアと結婚・妊娠というライフステージを両立することを推進することについて理解と協力をお願いしたい。
- ・仕事で困難な課題を抱えて悩んだり、業務量過多で疲弊してしまったときに、真にサポートされる体制を望みます。
- ・問題解決の助けが得られる、また、そこに繋げてくれる人がいると素晴らしい。
- ・秘密が守られると本当に信じてことができる相談窓口の設置。
- ・アンケートも大事ですが、聞き取り調査もお願いしたい。
- ・親身になってささいな話でも聞いてくれる（予約なしでも可能な）場所、学内でひとりになりたいときに一人になって落ち着ける場所がほしい。

<コミュニケーションに関すること>

- ・十分意見を聞く場を持ってほしい。
- ・親密なコミュニケーションを希望します。

考察

Discussion

今回は Cross-sectional design によるアンケート調査だったため、断面的な部分を表しており、参加者数においても外国人が少なかった。今後はより多くの人数、多方面の参加者を対象にした深度ある Research を提案したい。

この SRES 開発者である King and King (1990) ⁴ が行った、米国の Midwestern University の学生を対象にした調査における SRES Score の平均は「105.61」であり、本調査の Score とほぼ一致していた。一方、China, Brazil, Jordan では SRES Score は高い水準を示し、日本をはじめ Ukraine, Vietnam, Indonesia, Myanmar などは低い水準を示している。しかしサンプルの数が少ないので国全体の水準を表しているとは言えない。日本の場合はサンプル数が 270 名なので比較的参考になる数字を表していると言える。結果の中で注目したいのは、外国人グループと日本人グループともに結婚または同居している方が SRES Score が高い水準を示していることで、男女共同参画を進める上で参考にすべきである。早いスピードで超高齢化社会が進む状況において、今後の出産率向上に向けた政策の導入にぜひ参考にしていきたい。



References

- 1) OECD Better Life Initiative (2013) How's Life? 2013; Measuring Well-Being "Gender differences in well-being: an women and men have it all?", Available at <http://www.oecd.org/statistics/better-life-initiative.htm>
- 2) (Walby, S., 1990) Theorizing Patriarchy, Basil Blackwell, Cambridge, MA
- 3) Linda A. King and Daniel W, King (1990) Abbreviated Measures of Sex Role Egalitarian Attitudes, Sex Roles, Vol 23, 11-12
- 4) King and King (1990) Abbreviated Measures of Sex role Egalitarian Attitudes, Sex roles, Vol. 23, Nos. 11/12

～第二章～
交流会の開催



交流会「研究の悩み、どうやって解決していますか」の開催

ランチ交流会の
お知らせ
飲み会・お菓子会

平成28年度DDユニット事業推進室主催
若手研究者キャリアパス支援事業

研究の悩み、どうやって解決 していますか？

How do you manage your problems
from your research? ~Discussion event~

内容：日々、研究を行う上での悩みやその解決方法について、研究者の皆様で話し合って共有し、研究のモチベーションを上げて見ませんか。お気軽にご参加ください。

日時：平成28年11月29日(火) 12:00~13:00

場所：東京医科歯科大学M&Dタワー11階 大学院講義室3

対象者：東京医科歯科大学、順天堂大学、株式会社ニッピに所属する研究者・大学院生（男女を問いません）

申込方法：参加希望の方は氏名・所属・電話番号・メールアドレスをddunit.ddu@tmd.ac.jpまで御連絡下さい。人数に余裕があれば、当日参加も可能です。
※ランチタイム開催ですので、昼食持参でご参加下さい。

Date : November 29, 2016, 12:00~13:00
Place : TMDU M & D Tower 11th floor, Seminar room 3
Participant : Scientists and students in TMDU, Juntendo, and Nippi Inc.
Registration: Email your name, affiliation, telephone number and email address at: ddunit.ddu@tmd.ac.jp
 ※Please bring your lunch at this event. Snack and soft drink will be served.

お申込先: 東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構 DDユニット事業推進室
 TEL: 03-5803-4172 Email: ddunit.ddu@tmd.ac.jp
 Tokyo Medical and Dental University, Diversity Diamond Unit

平成 28 年 11 月 29 日(火)に、ランチ交流会「研究の悩み、どうやって解決していますか？」を東京医科歯科大学M&Dタワー11階、大学院講義室3で開催しました。対象者は 東京医科歯科大学、順天堂大学に所属する 研究者・大学院生です。

この交流会は日々の研究生活において、研究者が悩みや課題をどのように乗り越え、解決しているかを話し合い、研究のモチベーションを上げることが目的です。当日は若手研究者キャリアパス支援事業小委員会の有馬助教のファシリテーションにより進めました。以下に参加者の方々からの意見やコメントをご紹介します。

有馬：皆さん、研究に関して悩んだことはありましたか。またそれをどうやって解決していますか？

参加者 1：いつも、研究の結果と予想が反対で、失敗した感じで悩んでいます。土日にくつろぎと休んで買い物をしたら、ストレスがなくなります。自分は研究が好きですから、先輩たちとも相談して、あきらめずにまた実験をやります。将来の夢は、研究で成功して人間の歯の健康を助けることです。

参加者 2：今まで研究をやった経験がないので、良い研究テーマを選ぶのが難しいです。また研究デザインの知識が足りないため、いつも心配

しています。ストレスも感じたことがあります。でも指導の先生に助けていただいて、研究をやる自信ができました。

参加者 3：私も参加者 1 さんと同じ、今まで研究をやった経験がないです。研究の論文を読んでも知識が足りないため分からないですから悩んでいます。

参加者 4：学生時代で一番大事なのは、お金です。研究や学費、生活など全部にお金がかかるのです。Ph.D.を卒業しても就職ができないから、お金の状況を気にする私にとってはストレスになりました。また研究室のシステムがおかしい、データが判断できない、実験結果と実は反対、など研究に関することも悩んでいます。

参加者 5：大学院で勉強した専門と、今やっている専門が違いますから負担になりました。自分のやりたい事をするが時間ない、家族と仕事のバランスを取るのが難しいです。

参加者 6：卒業して 25 年になりました。10 年歯医者をやった、そのあと今まで研究をやってきました。いつも、予想したデータが出ないことは一番悩みになりました。そのとき本当にストレスになりました。で

も私は、“No research no life”のタイプです。医学のために働きたい、死んだ後も自分の身体を医学のために使いたいという目的がありますから、ストレスより前の状況に戻って、また研究を始めます。

参加メンバーによる感想：

セミナーで、研究の為に悩んでいるのが自分だけではなく皆も色々悩みがあることがわかりました。先輩の研究者の方々が悩んでも、あきらめないで頑張っていることを聞いて、本当に感動しました。



若手研究者
キャリアパス支援事業に
参加して



朴 明姫

〈博士課程3年〉

暑い夏がいつの間にか過ぎ、キャンパスにドングリが落ちているのを見つけては、もう秋が過ぎるかと思ったら、早くも雪が降って師走になっている。現在、地球上の半分の人口は女性である。そのため、女性の能力を十分に活用する社会が発展することは必要である。日本も韓国も早くジェンダーギャップの底から抜け出すべきであると思いつつ、これからもキャリア支援の仕事や研究に携わりたい。

千葉県の酒々井駅からお茶の水駅は遠く、有馬先生をはじめメンバーのみなさんとのミーティングの時間を十分に取れなかったのが心残りである。

무더운 여름이 지나고 캠퍼스에 도토리가 교정에 나뉘는 것을 보고서야 가을이구나 싶었는데, 어느덧 눈이 내리고 올해를 마감하는 달도 얼마남지 않았다.

지구상 인구의 반은 여성이고, 여성이 능력을 충분히 발휘하는 사회가 발전하는 것은 당연한 일일 것이다. 한국도 일본도 어서 빨리 여성차별 최하위 수준의 순위에서 벗어나야 할 것이

다. 그런 생각을 더 깊이, 더 많이 하게 되었다.

앞으로 커리어 지원에 관한 일과 연구를 계속해 나갈 것이다.

치바현에 위치한 학교에서 동경치의예대학까지는 2시간남짓 걸리는 거리이다보니, 아리마 선생님을 비롯한 아부라티씨, 킨씨와 더 많은 시간을 함께하지 못한 것이 못내 쉽다.

2016년 12월 8일 토요일준텐도대학원 사쿠라캠퍼스신보건 연구실에서



(薩摩焼14代 沈壽館先生:2016. 11. 25.)

ABUDUREZAKE. ABULAITI

〈 博士課程1年 〉

私はこのプロジェクトに参加して、他の人たちも私と同じように、仕事と家族とのバランスをキープしたいと考えているのを理解することができました。セミナーとアンケート調査を行い、特にアンケート調査の自由回答には、多くの意見をいただきました。皆さんそれぞれ何かしらストレスを持ちながらも、あきらめしないで、自分の目標のために頑張っている事も分かりました。有馬先生のような、素晴らしい指導者のご指導をいただきながら、皆で一緒に頑張って、チームワークの力と楽しさを体験しました。

ئىنمەدائى ھەممەھ، ئۇمىسىمىلۇب كەت لوق شەب، مىتشىرىي ئېكپەن پۆك پىشىنىتاق ەگرۇت ۇب
اقتىلىچىنىيىقتىشۇمۇرۇت ەشۇنۇگۇئى، ناغلىقسىھىسىب، ناغۇچۇئىقتىلىشىشۇنۇئى،
ۇمخىتىنىقلىلناغىدىلۇب كىنىرىلىتلىق ئاغلان ەملەلىبىنىشىلىق ەمىن پارۇچۇئى
نۇغۇن، ادىناپەرەج شۇرۇشكەت قىلىقراي تىكنا ەھىسىكىل، مىتتەي پۇنۇشۇچ رۇقۇچ
نەگرۇك ىشخاي، ئۇمىسرۇت پارۇچۇئىقتىلىشىشۇنۇئى ەدەق ۇمەدەق كىنرەلىشىك
اقتىلىق، ايتىلىق ەمچەك زائىتەق نۇچۇئى رەلتەسقىم غۇلۇئى ەھىرىلىشى
...مىدىلىقسىھىرۇقۇچىنىقلىلناقتاۋىشىرىت زىسۋاتخوت

تەلپائى قازارۇدبائى

نىدىمۇلۇب رەللىلەسكى قىشات كەرۋى تىتسىرىۋىنۇئى ودىتەنۇچ



KHIN YUPAR KYAW

〈 博士課程3年 〉

The time flies so fast that two and a half years have already passed in my journey to PhD here in Japan. There were many struggles, unforgettable memories and irreplaceable experiences. In my country, I am used to working on patients in my private clinic. When I first came to Japan, I had no idea on how to do research. My supervisor was very kind and taught me patiently and I learned a lot from him. Now, I already have some research knowledge and many ideas and things I want to research on. My main intention is not just to get a graduate degree but also to learn and exchange culture, learn the Japanese language among other things. I will be graduating in September 2018. With only two years remaining until my graduation, I might not be able to do all the things I plan to do.

Regarding this project, at first, I felt a little nervous and confused on what I was supposed to do. Dr. Arima sensei however instructed us, step-by-step and taught us how to work together and cooperate to come up with an idea. Under the guidance of other good members from Juntendo University, who I regard as very good leaders, my idols, I was able to accomplish many things. Thank you to all the participants in the seminar and to all the volunteers who responded to the survey. Although it was difficult and hectic for me for doing my laboratory research and this project at the same time, I am very glad for this experience. It taught me a lot about teamwork, sharing knowledge and gave me the opportunity to exchange ideas and learn different cultures.



東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構
DDユニット事業推進室

〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45
TEL:03-5803-4172 FAX:03-5803-0412
E-mail:ddunit.ddu@tmd.ac.jp
<http://www.tmd.ac.jp/cmn/ddu/>

